

第3回地域活動報告会 実施報告書

稚内北星学園大学
Wakkanai Hokusei Gakuen University

目 次

ごあいさつ	稚内北星学園大学 副学長 佐賀 孝博	1
1. 地域活動報告会概要 (講演録)		3
2. ポスター報告 (報告資料)		29
3. アンケート集計結果		35
資 料		51

ごあいさつ

稚内北星学園大学副学長

事業推進責任者 佐 賀 孝 博

本学は26年度の文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）に選定され、「地域の教育力向上とまちづくりで協働する地（知）の拠点整備」というタイトルの下、全学的に地域連携活動に取り組んできました。その柱は次の3つです。

- ① 地域の教育力向上
- ② 観光まちづくり
- ③ 中心市街地活性化

今回の地域活動報告会では、この3つの柱それぞれに関連した取り組みについて活動を行なった学生より計4件の口頭報告があり、報告内容についても報告会出席者の方々による事後アンケートで好意的なコメントが多数寄せられました。このような評価をいただいたことで、大学COC事業の目的である「大学での学びを通して地域の課題等の認識を深め、解決に向けて主体的に行動できる人材を育成する」ことを達成できつつあると実感しているところです。

また、本報告会では、大学COC事業のひとつとして行なっている本学教員対象の「地域志向教育研究経費」で採択された研究計画より4件の研究内容がポスター報告として発表されました。報告会終了後も研究内容について報告会出席者の方々も交えて活発な意見交換がされている場面も見られ、地域の方々の研究成果への期待を感じ教員の一人として身の引き締まる思いでした。

本学は大学COC事業を通して、これまで以上に学生・教員が地域を見据えた活動を行ない、地域活性化の一助になるように今後も活動を行なっていきます。学内外の多くの方々から引き続きご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. 地域活動報告会概要（講演録）

地域活動報告会も今回で第3回を数える。COC推進委員会では、具体的な実施計画の草案を7月6日に決定し、同月28日に実施計画を正式決定した。その後、教授会への報告、委員会での審議を重ね、実施に至ったものである。

主 催：稚内北星学園大学

会 場：新館 1301 教室

日 時：平成27年10月20日（火）14時30分～16時10分

※ 前後30分はポスターセッション

開催の目的

COC事業の個々の具体的事例を共有し、担当者（教職員・学生）を励ます【H27COC事業調書(34)記載の成果目標より】

発表形式

口頭発表及びポスター発表とし、口頭発表は、主に学生が参画した調書記載事業から選定、ポスター発表は、上記に漏れたもののほか、個々の学生、学生団体、教職員の研究、教育、社会貢献活動とした。なお、平成27年度地域志向教育研究経費採択事業のポスター発表を必須とした。

<第1 報告：地域教育分野>

○報告者

佐藤 幸輝（情報メディア学部情報メディア学科3年）

木村 英之、渡辺 千尋（以上、同4年）

○ 報告題名

地域教育支援と教職としての学び

○ 報告内容要旨

地域教育支援として、主に教職ゼミで取り組んでいる3つの活動内容と、教職をめざす学生として学んだことについて報告した。

渡辺さんは、豊富町で行なわれた夏休みの学習支援について、事前準備の大切さや子どもたちとの関わり方、子どもたちの学習支援のサポートの仕方、学生同士の連携・協力の大切さ、地域を知ることの重要性を学んだと報告した。木村さんは、猿払村教育委員会主催の遠隔学習支援について報告した。佐藤さんは、「まちラボ」を使い、ゼミ生が子ども達に対し無償で行なった学習支援「無料塾」について報告した。

<第2 報告：地域観光分野>

○報告者

阿部 卓、布目 勇気、大井 峻司（以上、情報メディア学部地域創造学科3年）

○報告題名

まち歩きガイド視察報告

○報告内容要旨

去る9月1日から3日東北地方を視察した。観光ガイド事業立ち上げの際の地域との調整やマーケティング面を中心に報告した。

考察として、①「ガイドの意義」が、道に迷わない、地元の話を知ることができる、そして自分だけではできない体験や発見ができること、②「ガイドの観光まちづくりにおける意義」が、地域アピール、移住促進、交流人口増加などを通じた地域の課題解決の手段にあることなどを報告した。

<第3報告：まちなか振興分野／学生COC支援室選定>

○報告者

大野 颯太 (情報メディア学部地域創造学科4年)

藤澤 翔太 (同3年)

○報告題名

商店街における実践活動～稚内中央商店街での活動を通して～

○報告内容要旨

稚内中央商店街における動画づくり、学生によるイベント運営を通して何を学んだのかを報告した。事例として、「中央アイスクャンドルロード」における「わくわく★ほくほく in Snow House」、 「第2回白夜!!稚内中央アーケード祭♪」における「～Wakhok White Night～大学市」を紹介した。また、これらの企画の母体となる学生団体「大学COC事業学生サークル(通称「だしじル」)」の取り組み、現在進行中の稚内中央商店街振興プロジェクト「稚内中央商店街 紹介動画制作」について報告した。

(動画紹介) 出汁之介(だしのすけ)稚内中央商店街に行く(幹) https://youtu.be/ly_wHWy9ZtU

<第4報告：まちなか振興分野／学生COC支援室選定>

○報告者

武田 大貴 (情報メディア学部地域創造学科3年)、白石 拓也 (同4年)、越後 武蔵、勝又 万由子、竹原 朋希、中島 拓人、中田 瑞稀、本田 楓芽、山岸 純樹 (情報メディア学科1年)

○報告題名

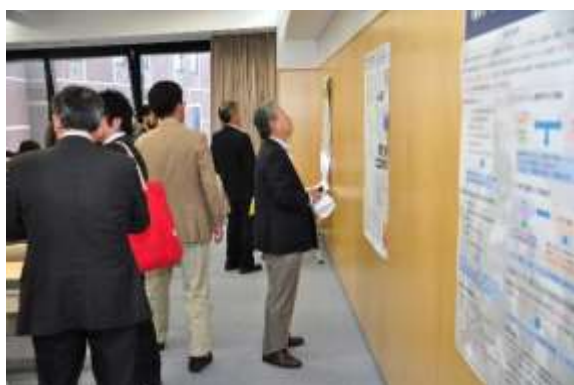
商店街における実践活動～利尻町杓形商店街での活動を通して～

○報告内容要旨

利尻町杓形商店街における「海藻押し葉コンクール」(9月2日から5日の4日間)の活動報告でのボランティア活動を通して何を学んだのかを報告した。

例えば、参加学生は、グループワークを通じて、「もし、予算があったとしたら杓形商店街でどのようなことがしたいか?」という問いに、利尻町の「あったらいいもの」×「強み」の組み合わせから、①会員制の海産物店、②若者の流出を止める、③海藻押し葉の商品化やオークション、といった方策を提示したこと、町長を表敬訪問し意見交換したことを報告した。

4日間の活動を通じて、①人が作ったもの(作品)を大切に扱い、気持ちを引き継ぐこと、②「おはよう、こんにちは」が当たり前になり合いえる関係性があること、③地元の若者が活躍できるような仕組みづくりが必要であることを学んだと報告した。



○司会 本日は、多数ご出席いただきまして、このように第3回地域活動報告会、開催できますことを稚内北星学園大学の教職員一同喜んでるところです。これより、第3回地域活動報告会のほうを開催したいと思います。

まず初めに、開催に先立ちまして、学長の佐々木よりご挨拶申し上げます。

○佐々木学長 皆さん、改めましてこんにちは。

本日は、第3回目の地域活動報告会、今まで私たち文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」COCに採択されまして、その中で私たちのささやかながらの力ではありますが、学生と一緒に地域に入り込み、そして地域の皆さんと一緒に、この地域づくりに励んでいきたいと思っ、て今までやってきました。学生たちの活躍を新聞等々でも随分とたくさん報道していただいております。私たちもとてもうれしく思っております。学生が地域に入って、そして活動している姿、それは私たちにとっては誇りであると同時に、地域の皆さん方にとってもとても励みになるかと私たちは思っております。

その意味で、これからも学生が地域に入っているいろいろな活動をしていくことを願っております。本日は、そのような意味での地域活動報告会を学生のほうからもやっていただきたいと思いますと思っ、て、こういう会を設けました。本日は、出席どうもありがとうございました。（拍手）

○司会 ありがとうございました。

これから先、口頭発表を四つ準備しております。いずれも学生の活動です。

まず、早速ですが、第1報告として地域教育分野から佐藤幸輝さん、木村英之さん、渡辺千尋さんによる「地域教育支援と教職としての学び」というテーマで発表をいただきたいと思っ、ます。よろしくお願ひいたします。

口頭報告

第1報告（地域教育分野）

○渡辺氏 皆さん、こんにちは。情報メディア学科4年教職ゼミの渡辺千尋と申します。これから豊富遠征についてご報告させていただきます。

豊富遠征というのは、豊富町で行なわれた夏休みの学習支援です。報告に関して今回は、学んだことを中心としてご紹介させていただきます。内容は、主にこの三つです。そして目的は、私たちゼミ生の中で、この三つを目的として行ないました。



次に、主な活動です。サマーチャレンジというのは、夏休み中の学習支援で、子どもたちにとって頑張ろうという意味も込めてサマーチャレンジという活動名となっております。心がけたことは、次の5点です。

そして学んだことです。まず一つ目、事前準備の大切さです。私たちゼミ生は、役割分担を食事係、レク係、しおり係、会計、課題づくり係というように、役割分担を決定しました。

そして二つ目は、子どもたちとのかかわり方です。ここでは、大学生としての意識で行ないました。いろいろな子がおりましたが、小中学生で声かけを変え、勉強の促し方、同じ学年でレベルの違う子どもたちへの対応を意識しました。また、ゼミの反省の中で、子どもたちに冷たくあしらわれてしまって、「こんな問題何でやっているんだ」とか、「簡単過ぎてすぐできるんだけど」などのように、1日目で泣きそうになっていた学生もおりました。そこで、教員の仕事ということの苦労を改めて実感しました。実際私たちは、いつも無料塾や地域支援の中で生身の子どもたちとかかわる活動をさせていただいているのですが、子どもとせめて数カ月、数週間でもかかわっているならまだしも、会って数分で打ち解けて一緒に学習や勉強を促すというのは、とても難しいところでした。そしてパークゴルフでは、みんなで豊かさを感じながら活動させていただきました。そして、スラックラインという綱渡りのような新スポーツも体験させてもらって、男子生徒が多かったのですが、楽しませていただきました。

そして、三つ目は、子どもたちの学習支援のサポートの仕方です。私たちは、1日終了ごとに反省をして、その日にわかったこと、各学年やその子どもたちの能力や進度などをすぐに次の日に反映させました。豊富小学校や中学校の進度を把握して、全くレベルが違ったので、教頭にその日のうちに資料をいただくなどしました。そこは教頭に非常に褒めていただきました。

次は、学生同士の連携、協力の大切さです。これは非常によかったです。一人一人の役割が明確だったので、責任を持って取り組む、かつ効率よく行動するのが鍵として行ないました。ご飯支度も立派な厨房をお借りして、全て自ら行ないました。この食事づくりに女子が全く関与していないところが、またいいなというふうに感じています。男の料理をつくってもらって、坪内教授もご満悦でした。これでより一層きずなが深まりました。これから教員になる私たちにとって、同僚性というのは、かなり欠かせないものだと感じています。

そして最後、地域を知ることの重要性です。何よりも豊富町教育委員会の方が親切で、熱心で、最高級のお肉を振る舞ってくださり、残ったお肉も明日からのご飯の支度にどうぞというような、とても優しい方でした。またある学生なんかは、教育長と好きなたばこの銘柄について話したりしていて、このような交流は都心部では絶対できない交流だなと、貴重な体験でした。

そして、豊富温泉で皮膚の治療をしていた方たちの講話を聞きました。私たちのために講話をしていただいて、豊富温泉の効果や仕組みや町の中での位置づけ、温泉と皮膚治療などに関して、実物のものも用意していただきながら説明してくださいました。そこで、「豊富や稚内を活性化するために私たちができること」というふうに話し合っ、発表、交流もさせていただきました。

このように豊富町を知るといのはもちろんですが、私たち一人一人がどこかで就職したときに、その地域を知るといのは、教職であればかなり重要になってくると思います。子どもたちがどのように地域で育っているのかという背景のもと、教育をしていくといのは重要ですので、今回の豊富遠征では、地域を知るといことを通じて、このようなことも学ぶことができました。

そして最後に反省と改善です。その日の反省の中で話し合っ、直して、次の日から改善、実行しようとい話をしてから就寝していました。そして、教員になってからの練習の場であるので、いろいろな生徒とかかわること、地域とのかかわりの重要性を非常に感じる、いい2泊3日の豊富遠征となりました。このような機会をくださった皆様、ありがとうございました。(拍手)

○佐藤氏 こんにちは。情報メディア学科3年の教職ゼミ佐藤です。時間も限られているので簡単になってしまうのですが、報告させていただきます。

私の報告は、無料塾についてです。まず、無料塾の日程は、8月3日、あと5日から7日までの4日間行ないました。場所は、中央商店街にある「まちラボ」を使わせていただきました。参加してくださった子どもたちが、東地区学童の人たちと、あと中央小学校の5年生の女の子の2人組みが4日間毎日来てくれました。



活動内容としては、まちラボを使い、教職ゼミの学生が子どもたちに対して無償で学習や課題の支援をしていました。あとは、毎日一日終わった後には、ゼミ生みんなで反省会をして終わるとい形でした。今回の無料塾の活動は、この活動の実施の前にもゼロからのスタートだったので、いつやるか、どういう日程でやるかとか、あと子どもたちは来るのかとか、呼び込みをどうするかとかなど、いろいろな話があったのですが、とりあえずやってみなければ始まらないなといことで、試験的な感じで実施しました。そのため、この4日間を通して参加してくれた子どもたちが、学童の子たちが来てくれたときは多く感じたのですが、ほかの日を見てみると、中央小学校の2人組みが来てくれただけだったので、やっぱりどうやって子どもたちを呼び込むかなどの課題が残ったと思います。

今回の活動での学びとしては、私自身印象に残ったことが一つありまして、それが反省会のときだったので、地域で協力してくださった方の話でした。その話というのも、中央小学校の4日間参加してくれた2人組の子たちの話についてだったのですが、地域の協力してくださった方は、この子たちを見て軽く会話していくうちに、この子たち2人は学校にうまくなじめていないのではないかと話してくださいました。この時点では、私自身そんなことを子どもたちに対して考えていなくて、そこまで考えなければいけないことだと思っていたのですが、先日行なわれたCOCの地域シンポジウムのほうで、この子たちの話があったのですが、実際にクラスのほうでうまくなじめていなかったのですが、この無料塾に関してはすごく楽しいといった感じの話をしてくださったときに、子どもたちを見て話していくうちに、そこまで見抜く力というのを養っていかねばいけないと感じました。

二つ目が、子どもたちにとってよい環境づくりとあるのですが、それに伴って、実際にクラスになじめない子どもたちが来ているという現状があるので、子どもたちが来てくれて癒やせる環境づくりを、学習の支援のほかに僕たちはやっていかなければいけないと思いました。

無料塾についての今後の活動なのですが、ゼミの内部で日程の話し合いなどもあるので今のところは月1回程度で行なうことが、学生の負担とかも考えると妥当ではという話も挙がっています。

二つ目に、遠隔授業とあるのですが、これは少し前まで猿払村と本大学のほうからの遠隔授業の活動をしていたのですが、この遠隔授業というのを無料塾で、まちラボのほうを使って発信していけば良いと、私たちみんな考えています。この遠隔授業のほうは実際のところ本当につになるかわからないのですが、今後検討していきたいと思っています。

以上で、無料塾についての報告を終わります。(拍手)

○木村氏 こんにちは。これから発表させていただく稚内北星学園大学情報メディア学部情報メディア学科木村英之です。よろしくお願いします。

猿払遠隔学習支援ということでやらせていただきます。まず、猿払村教育委員会から出ている資料を読みたいと思います。趣旨が、本村における学力向上のための雰囲気や意識を醸成するとともに、楽しさを覚えながら学習意欲向上を図ることを目的とする、このような内容になっております。そして主催は、猿払村教育委員会のほうから話が挙がり、講師が私たち稚内北星学園大学の学生でやらせていただきました。



対象が、小学校3年生から6年生まででやりました。日程は、平成27年9月12、19、26日と10月3日の計4回でやる予定だったのですが、10月3日は爆弾低気圧によって猿払村に行くことはかなわず、中止になってしまったので、3回遠隔授業をやったことになりました。そして場所が、猿払村の鬼志別小学校と浅茅野小学校という場所でやらせていただきました。

内容は、中学年、高学年に分かれた複式形式でやらせていただきました。そして、あとは鬼志別小学校と浅茅野小学校の2校を結ぶことによる学習意欲向上ということでやっていました。あとは、私たち大学生との人間関係の構築ということでやりました。そして、ここは大事ですね、参加費は無料でやりました。

そして、ここから、どのようにやっていたのかを説明していきます。大学側から支援している様子はこのような感じです。このパソコンの上のほうにカメラがついていて、そのカメラを使って、Skypeという映像でテレビ電話のようなものがあるのですが、そのアプリを使って、この丸いものがマイクになっていて、そのマイクで声を拾いながら、猿払村の浅茅野小学校と鬼志別小学校をグループでつないで、一緒に授業をするという感じで支援していきました。そして猿払村側では、猿払村でもこのように支援していました。こちらが浅茅野小学校なのですが、浅茅野小学校ではパソコンを使える人が少ないので、こちらから浅茅野小学校と鬼志別小学校に一人ずつ行って支援させていただきました。そして、この大きな紙なのですが、映像と声だけでやっているのですが、ラグが生じたときに画像が見えなくなったり、声が聞こえなくなったりすることがあるのですが、そのときに、このような紙を使って、子どもたちと連携をとって、学習支援をさせていただきました。そして、行ったついでに、休憩のときに、一輪車で一緒に遊ぶという経験もさせていただきました。とても楽しい体験でした。

そして、猿払村の3回の遠隔授業があったのですが、そのときの感想と反省ということで、よかった点は、子どもと一緒に学び、楽しめてよかった。遠方の学校とかかわることができてよかった、授業力や指導力のスキルアップになりました。かかわったのは教職ゼミなのですが、教職ゼミのみんなが声をそろえて言ったのは、やはり遠方の学校の子どもたちとかかわることが「グングン塾」以外ではないので、グングン塾は、この間のシンポジウムで話したのですが、稚内市では活動はしているのですが、猿払村のような遠方の学校とかかわることが余りなかったので、とてもいい勉強になりました。

そして、改善点ということで、猿払村のほうでパソコンの環境が余り良くなくて、Skypeをグループで2個使うと、ラグが生じてしまって、声とか音が飛ぶことや、さっきの紙を使っても厳しい部分があって、そこが直れば、これからもっといい方向に進むのではないかと思います。

あとは、参加児童を増やしてほしいというのは、猿払村の子どもたちの参加で、さっきの写真でもあったのですが、1人とか、2人のときがありまして、先生方が5人いて、生徒1人ということがあったので、そこはもうちょっと参加児童が増えたらもっとよいのではないかと考えております。

展望ということで、これから遠隔授業をこうしたらいいのではないかとこののを僕たちで考えたのですが、猿払村以外で活動できるようにすること。Skypeというのは世界中どこでもつなげてお話しすることができるので、稚内のこの大学にいながら、塾とかができない僻地の方々の困っているところに、無料塾として僕たちの遠隔授業ができれば最高なのではないかというのがまず一つです。

もう一つは、さっき佐藤君からまちラボの無料塾のことで話があったのですが、まちラボを開催しているときに、猿払村などとSkypeをつないで学習支援ができたなら、子どもたちがわからない問題があったら、カメラの前に来て僕たちに聞けるような関係ができたらいいなと思っています。

そして、最終的な目標なのですが、猿払村の子どもたちが、お家からわからない問題とかを、時間帯を決めて僕たちに相談することができるというのが一番いいことなのではないかと思っております。ありがとうございました。(拍手)

○司会 ありがとうございました。

地域教育分野で佐藤幸輝さん、木村英之さん、渡辺千尋さんの発表でした。ゼミを主宰している、また地域教育支援室の室長でもある米津先生から、まずコメントを頂戴したいと思います。お願いします。

○米津氏 こんにちは。地域教育支援室長をやっております米津と申します。

教職を坪内先生と一緒に担当させていただいております。時間も迫っていると思いますので、簡潔に行きたいのですが、一番大事なことは、体験をするということだと思います。体験すれば何でもいいというわけでもないですし、それが絶対視されてもいけないのですが、体験することによって、チームで協力するとか、当然指導力もあるのですが、そういった力。あと、子どもたちとかかわっていく力というのは、一番育っていると感じています。

今回は発表にありませんでしたが、ずっとお世話になっています稚内市のグングン塾についても、それがかなりベースとして、子どもたちとかかわる力を育てるところになっていて、それが今回新たな活動に展開されていると見ていいと思っています。ときには、中学生の女子に悩まされたりしながら、一生懸命関係性をつくろうとしているところや、その悩みをみんなと供用して勉強していくことがとても大事ななと思っています。

その背景に、やっぱりこの地域の教育に対する、こういった大学に対して協力していただきっているという関係性が第一にあると思っています。それから、そういった協力体制を、しかも本学の学生は苦学生が多いものですから、ご理解いただいて、ある程度有償にさせていただいたりですとか、交通費を出していただいたりですとか、そういった面からもご支援をいただいているということがかなり大きいと。そういうことがあって、心置きなく、生活のことを気にすることなく、体験の学習ができるということがありますので、そういう点で地域に恵まれながら、学生が有効な学びができていくというふうに思っています。(拍手)

○司会 ありがとうございます。

第1報告はこれで終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

私、COC推進委員会で事業推進室長をやっております。また、本学の講師でもある黒木宏一でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

第2報告(地域観光分野)

○司会 それでは、第2報告として、地域観光分野で発表をいただきます。学生3名です。阿部卓さん、布目勇氣さん、大井峻司さんから「まち歩きガイド視察報告」ということで発表いただきます。よろしくお願いいたします。



○大井氏 皆さんこんにちは。これから、藤崎ゼミによる「まち歩きガイド視察報告」

のほうを始めさせていただきたいと思います。発表は、私、稚内北星学園大学3年の大井峻司と阿部卓と布目勇氣の3人で発表させていただきたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

目次です。本日は、まず初めに視察概要、次に実際に視察に行った場所の概要や体験をお話しさせていただいて、最後に考察という流れでお話しさせていただきたいと思います。

では、まず初めに、視察ガイドです。まず背景なのですが、地域発信の着地型観光推進に当たり、ガイドは重要な役割を果たしています。しかし、事業として継続している例は少なく、多様な運営スタイルを学び、稚内初め、ほかの地域へ展開する必要があるとされています。

目的なのですが、先進地である東北地方に事例を学び、稚内を初めとした着地型観光に取り組む地域への参考にすることが目的です。

今回視察として三内丸山遺跡、青森県弘前市の路地裏探偵団というものと、最後に岩手県の田野畑村による「体験村・たのはたネットワーク」で、サップ船アドベンチャーズと津波語り部ガイドというものに参加させていただきました。

まず初めに、三内丸山遺跡ボランティアガイドを紹介していきたいと思います。三内丸山遺跡とは、日本最大級の縄文集落とされています。観光入り込み客数は29万396人です。これは、平成25年青森県観光入り込み客数統計を参考にさせていただきました。入館料、駐車場代金は無料となっております。

こちらのボランティアガイドも無料となっております。決まった時間にボランティアガイドさんがいらっしゃって、随時スタートとなっております。予約は不要です。

こちらが見てきたところなのですが、有名な竪穴式住居や、縄文時代の実際に着ていたものを着られるという体験です。実際に中に入ったりもできて、貴重な体験でした。三内丸山遺跡の報告は以上です。

○阿部氏 次に、弘前路地裏探偵団の視察の報告をさせていただきます。まず、弘前市の概要なのですが、人口が17万7,355人で、こちらは平成27年9月の弘前市人口資料を参考にさせていただきました。観光入り込み客数が450万9,000人で、こちら平成24年の青森県観光入り込み客統計と青森県観光国際戦略局の資料を参考にさせていただきました。

路地裏探偵団の概要なのですが、まず、迷うことが楽しい町ということが名前のもともとの由来らしく、江戸川乱歩の少年探偵団をまねして路地裏探偵団という名前になったらしくて、弘前はもともと城下町で、道が少なく、迷いやすい地形らしいです。

弘前路地裏探偵団の所属というか、設立されたのが社団法人の弘前観光コンベンション協会が設立しました。路地裏探偵団は、弘前のほうでは結構有名なのですが、有名になったきっかけは、地元の方々には地元のテレビ側からオファーが来たという話になっているのですが、僕たちに秘密というか、裏話という感じで教えてくれたのは、実は自分たちからたくさんテレビ局に売り込んで、そういう、行動をしたきっかけがあって有名になったよという話を聞きました。

路地裏探偵団の客数ですが、平成25年度が151組の635人、平成26年度が209組の849人で、私たちが実際に参加してきたツアーの「夕暮れ路地裏散歩」というツアーは、78組で399人でした。平成22年から、これまで約3,000人をご案内しているそうです。通年で予約が実施の3日前まで、参加料が一人1,500円で、記念品つきでシールとバッジがもらえました。定員が10名です。

こちらがガイドの様子なのですが、左側の写真がツアーの途中で立ち寄った商店の店主さんと話をしている様子で、右側の写真がツアーを歩く前にいろいろ話を聞いているときの様子です。

以上で、弘前路地裏探偵団の報告を終わります。

○布目氏 次に、NPO法人体験村・たのはたネットワークについてお話しさせていただきたいと思っています。

まず、田野畑村の概要です。人口は3,661人、これは、今年5月の広報「たのはた」のほうに載っています。年間観光入り込み客数が28万640人です。田野畑村は、平地が16%足らずで、ほとんどが山林となっています。海のアルプスと呼ばれています。それは、北上山地から続くなだらかな山々がつくるのどかな風景がそう呼ばれるきっかけらしいです。

次に、体験村・たのはたネットワークの概要です。私たちは、「サップ船アドベンチャーズ」と「津波語り部ガイド」に参加してきていたのですが、まずは、サップ船アドベンチャーズについて説明していきます。サップ船アドベンチャーズの「サップ船」というのは、漁師が漁業に使う小型漁船のことです。料金は1人3,500円です。平成26年度の入り込み数は、お客さんの数は6,214人です。ツアーの内容なのですが、サップ船に乗って、田野畑村近海をツアーでめぐるといった内容です。先ほど言ったように、海のアルプスと呼ばれることもあり、きれいな海や迫力ある絶壁、鵜や稀少な鳥などが間近で見られ、臨場感とともにたくさんの自然を感じられるツアーとなりました。波が穏やかな日には、海の途中にある洞窟とかにも入ったりできて、すごく貴重な体験ができます。

次に、語り部ガイドです。これは、大津波を体験した人によるガイドツアーで、料金は1人2,500円です。平成26年度のお客さんの数は1,203人です。この写真が、そのツアーの人をガイドされている画像なのですが、ガイドの内容は、震災当時の大津波のリアルな話を聞けるとともに、写真を持ってガイドしているのですが、ここにこの土地があったとか、それを写真と比較しながら見て、こんなことがあったというのをやって、すごくわかりやすくガイドしていただきました。それについて、時間がたって震災に対する気持ちが薄れてきた自分たちにとって、震災の恐ろしさと多くの犠牲や悲しみがあったということを忘れてはいけないと改めて思いました。また、語り部の話を聞いて、このようなことがあったことと同時に、悲しみが生まれなために防災意識について後世に残していかなければいけないと思いました。

以上で、体験村・たのはたネットワークの発表を終わります。

次に、考察です。まずは、ガイドの意義についてお話ししたいと思います。ガイドの意義とは、道に迷ったりすることがなく、地元の人ならではの話を聞くことができるので、自分だけでは知ることができない体験や発見があるところです。それに加えて、ガイドの観光ガイドまちづくりにおける意義を挙げていきます。観光ガイドまちづくりの意義は、観光ガイドによって地域のアピールができる、そのほかにも人口減少などの問題・課題を移住促進、交流人口増加などを通して解決する手段としてできることです。

こんなに意義のあることがなぜほかの地域では余り広がらないのかというのを私たちは考えてみました。考えた結果、私たちもそうなのですが、実際には口に出すだけで行動に移せていないということ、自分の立場、役職のことを考えてしまうこと、自分に自信がないから周りに言い出せずに考えを実行できないこと、役場などの行政に頼ってしまうことが、ヒヤリングからわかりました。それでも、弘前市や田野畑村はうまく立ち上げることができました。なぜうまくできる地域とそうでない地域があるのかを検討してみる必要があります。

次、まとめです。私たちは、これからの研究テーマは、どうしたらうまくいくのかいかないのかを考えていこうと思いました。それで、現時点では三つの切り口をとりました。

一つ目が人口規模です。例えば行政主導で行なうのなら5,000人規模の自治体が適しているという東村さんによる研究結果があります。実際、田野畑村は約3,600人という、東村さんの研究である5,000人に近い人口で成功しています。しかし、この手法をそのままほかの地域に行なっても同じ成果が得られるとは限りません。

二つ目は、やる気の問題です。やる気と言っても、やればできる気という話ではなく、幾らやる気のある人が集まっても、その活動が成功するとは限らないということです。例えば地域おこし協力隊が行なう観光まちづくりの活動にそれが見られることがあります。やる気とまちづくりのスキルが見合っていないということが失敗の原因とされます。最近では、それらの反省を生かして、定住や、現地で起業して長く時間をかけて活動を行なうという例も見られます。

三つ目は、マーケティングです。路地裏探偵団の例を見るとよくわかるのですが、メディアに対しての戦略的な発信と組織の個性やユニークさをマネジメントしていたということが成功につながったのだと感じました。

これらの三つの切り口を私たちの研究テーマとして活動を行なっていきたいと思えます。以上で、私たちの発表を終わります。(拍手)

○司会 ご発表ありがとうございました。

ゼミを主宰している、また地域観光支援室長でもある藤崎先生から、まずコメントを頂戴したいと思います。お願いいたします。

○藤崎氏 皆様こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました稚内北星学園大学地域観光支援室長の藤崎と申します。日ごろは、本学の活動にご協力くださりましてまことにありがとうございます。また、地域観光支援室などという、観光支援などという、大それた名前をつけて活動をしているのですが、実際、大学と観光協会さんなどと一緒に、ガイドの育成事業などを行なわせていただいております。それも重ねましてお礼申し上げたいと思えます。

今回は、私が連れて東北の視察に行っていました。具体的には地域のガイドを視察してきていたのですが、今発表がありましたとおり、地域の魅力をアピールする、いろいろな課題を解決する一つの手段としてガイドを捉えてくれたのはよかったなと思っております。

最後のスライドに、まとめとして、今後の研究テーマとして3点掲げておりました。一つは、そもそも今、地域創生の時代で、いろいろな成功事例が発表されていますが、それがほかの地域にそのまま移していいのだろうかということに気づいてくれました。その一つは人口規模ということで、東村さん、コンサルの方ですが、その方の研究結果をもとに広げようとしております。それから、やる気の問題でございます。やる気があれば何でもできるわけではないので、先ほど話しましたが、やる気とスキルという切り口を話しておりましたが、では、地域おこしにおけるスキルとは何なのかといったようなことを考えるきっかけとなりました。

最後、マーケティングですが、何かよい商品をつくれれば売れるという感覚が多い中、積極的に裏でいろいろと売り込んでいった姿を、今回は視察で学んできていただけました。今後、稚内初めほかの地域でも活用するにはどうすればいいのかというところを勉強していただければと思います。まだこれはスタートに立った時点ですので、皆様のご支援ですとか、ご指導を賜りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

○司会 ありがとうございます。引き続き第3報告のほうに移らせていただきます。ご報告ありがとうございました。

第3報告(まちなか振興分野/学生COC支援室選定)

○司会 第3報告ですが、まちなか振興分野であり、また、学生COC支援室から選定がありました大野颯太さん、それから藤澤翔太さんによる「商店街における実践活動～稚内中央商店街での活動を通して～」という題名で報告をいただきます。お願いいたします。

○大野氏 皆さんこんにちは。地域創造学科4年の大野颯太と、3年藤澤です。よろしくお願いいたします。これから、稚内中央商店街での実践活動についてご報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、私たちが紹介するのは、この四つとなっております。最初に、今年2月に行なわれました中央商店街の中央アイスクャンドルロードにて「わくわく★ほくほく in Snow House」というものを実施しました。このアイスクャンドルロードというのは文字のとおりなのですが、中央商店街のそれぞれのお店が、お店の前にスノーキャンドル、アイスクャンドルを飾りまして、



商店街をキャンドルで明るくしようという試みのものです。

このイベントの概要なのですが、日時は先ほど申しました2015年2月14日、ターゲットは稚内市民となっております。企画概要は、学生たちがスノーキャンドルをつくりまして、それをまちラボ前に展示という形です。同時に、まちラボ内を無料カフェ、プチカフェとして開放し、飲み物を無料で提供してくつろいでもらうというものです。

この時期がまちラボのオープン前ということもありまして、まちラボの宣伝と周知を目的としております。

これは、前日の製作途中の様子で、こちらが当日のアイスクャンドルに点灯したときの様子になります。

こちらは、本当は今回諸事情によりつくりができなかったかまくらを、除雪等で積み上げた雪山に、無理やり穴を掘ってつくったかまくらです。こちらのかまくら、実は子どもから大人までいろいろな方に楽しんでもらうことができるという、結構インパクトが大きかったものでした。

こちらが、まちラボの中の様子です。こんな感じで、ちょっと写真では見えづらいのですが、温かい飲み物を片手に皆さん家族同士、友達同士、談笑している様子ですね。これの裏で学生が、いろいろな調理をしているという状況でした。

イベントの成果と考察ですが、この日のまちラボの利用者数は約60名でした。一応目標、目的として立てていたものなのですが、移転後のまちラボの雰囲気、利用方法、存在というものを周知できたのではないかと。あと、この企画を立ち上げたメンバーを中心にサークルを設立しました。そのサークルが、大学COC事業学生サークル、通称「だしじル」というものです。

「わくわく★ほくほく in Snow House」の報告については以上なのですが、次に、大学COC事業サークルというものは何なのか、「だしじル」とは何なのかというものについて説明させていただきます。

このサークルは、先ほど申しあげました中央アイスクャンドルロードの企画をきっかけに設立された学生サークルでありまして、メンバーは4年生が2人、3年生が2人、2年生が1人、合計5人のサークルとなっております。

このサークルの目的なのですが、学生による地（知）の拠点事業、COCに対する自主性の構築、あと学生間でのCOC事業への理解を深める、また、COC事業に係るイベント、企画、支援、こちらが一番大きいのですが、そういうことを行なっていくサークルです。

このサークルの今後なのですが、COCが事業に選定されてから立ち上げたものではあるのですが、この事業をきっかけにして始まったイベント等々、またCOCが終わった後も取り組みを継続、継承

していきたいと考えております。また、学生への協力要請と、学生間でのCOC事業に関する意見交流会を設けるなど。これは、今回の地域活動報告会のような規模ではなく、学科コースの横のつながりを深める交流というものをしていきたいと考えております。

まず、大学COC事業学生サークルについての報告は終わらせていただきます。

○藤澤氏 「第2回白夜!!稚内中央アーケード祭♪」にて開催されました「～Wakhok White Night～ 大学市」というイベントを、先ほど説明させていただきました大学COC事業学生サークルで企画させていただいたのですが、こちらの企画の概要が、日付は6月20日、ターゲットは稚内市民とさせていただいています。



企画の概要としては、中央商店街にて開催されていましたが歩行者天国内で、大学生がゼミナールやサークル単位でお店を出店、ゼミナールであれば今後のゼミ活動にかかわるゼミ費を稼いでもらい、サークルは僕ら大学COC事業サークルだけだったのですが、本来であれば、学年ごとでやるような学校祭と似たような感覚で、お店を出してみませんかと宣伝をさせていただいて、いくつかのゼミナールとサークルが参加してくれました。それから、商店街の真ん中をお借りすることができたので、市民の方へ告知をして、フリーマーケットを開催させていただきました。

当日の配置なのですが、市民の方の協力によってフリーマーケットが8店舗、それから大学のゼミナールが二つ、サークルが一つ、一般の方がカニ汁を出していただけるということで、一般に委託した店舗が一つで当日やらせていただきました。

この企画の目的なのですが、先ほどの中央アイスクャンドルロードよりも、さらにまちなかメディアラボの周知を行ないたいという目的がありました。それから、フリーマーケットを開催するに当たり、告知から打ち合わせなどを学生のみで行ない、市民との連携を目的にしました。それから、ゼミナールやサークル内でのCOC事業に対する理解を深めるという、そこから今後の自主的な活動や、考察を持ってほしいという目的がありました。

当日の様子です。これはゼミナールで綿あめをつくっている様子です。それから、これが焼き鳥とポテトのゼミナール店舗です。こちらが、一般に委託させていただいたカニ汁の店舗で、これがフリーマーケットと大学の店舗を連ねている写真です。

成果、反省なのですが、この日は、白夜祭が稚内駅「キタカラ」にて、同時に開催されていたので、客足はすごく多かったです。それから、商店街の大学フリーマーケットの奥、先ほどの図でいうと、あちら側に移動動物園がありまして、こちら側一番奥にステージがあったので、そこ

を通り道としてフリーマーケット店舗があったので、すごく皆さん気になって、足をとめてくれるような状況になっていました。大学生がイベントを運営しているということで、市民から何やっているのかなどいろいろと質問を受けました。

それから、商店の営業の妨げにならないように、店の前から店舗をずらしたのですが、結果的にまちなかメディアラボのほうを遮ってしまって、当日、開催されていたイベントの妨げになってしまうという状況にもなっていました。

それから、フリーマーケット出店者の方々への交渉があったのですが、販売するものを運ぶために商店街の外に車をとめてもらって、そこから商店街まで運ぶことを打ち合わせで詳しく説明できなかったのもので、そういう交渉にすごく苦労しました。それから、本当はフリーマーケットが8店舗以上出店を予定していたのですが、告知・PRをぎりぎりになってからしてしまったので、結果8店舗という形になって、少し規模が小さくなりました。

今ので、大学市の発表を終わらせていただきます。

続きまして、サークルの活動ではなく、こちらの中央商店街振興プロジェクトとして現在進行している中央商店街の紹介動画について説明させていただきます。

目的は、学生として何ができるのかという視点で、さまざまな活動を計画している中で、その一つとして商店街の魅力を発信するための動画づくりというものを行なっています。

こちらの動画は、1年を通して学生、若原・侘美ゼミを中心に6名が実施しています。学生がアポイントをとり選定した商店を取材し、各店主の方々にインタビューをさせていただいています。それから、商店街で開催されているイベントの動画や、それ以外の日常的な店舗の様子を撮影して、その動画をまとめてYouTubeのほうにアップさせていただいています。

そちらの動画の内容なのですが、一つ大きな動画を木の幹とし、その動画を中心に各店舗のリンクを枝とする。YouTubeの機能であるアノテーションを活用させていただいています。

実際に店舗を訪れた感覚となるように、ヒト目線のカメラワークにこだわっています。それぞれの店舗の紹介動画というものは、このように下に映っていますが、全て手元が映った状態からスタートになります。なので、枝となっている各店舗動画を見ると、必ずお店の中に擬似的に入店しているような感覚に陥るようになっています。

この文章だけではわかりづらいと思うので、図にさせていただいたのですが、幹となる動画がありまして、その動画では稚内のゆるキャラである「出汁之介」が中央商店街を走っているのですが、その走っている動画の中にペットショップ「カナリヤ」、ラーメン屋「大王」、「大王」と位置が逆なのですが「ノーザンノース」、各店舗の前に、「カナリヤ（各店舗）をのぞいていく」とい

う四角い枠があるのですが、この枠をクリックすると、そのペットショップ「カナリヤ」の紹介動画につながる仕組みになっています。

ここでアノテーションというものの実際の動画を見ていただきます。(動画)「こんにちはは出汁之介です。今回は稚内中央商店街を歩くよ。」これが枝となる動画です。(動画)「へい、お疲れ。やっぱり僕って人気者だな。ペットショップカナリヤをのぞくなら……」、ここに出てくるこの四角い枠、これをクリックしていただくと、こういうふうにお店の中に入ったような状況になりまして、これが「カナリヤ」の紹介動画につながります。最後まで見てもらえると、この動画のすばらしいところがわかります。

自分が今まで一緒に取材をしていたという感覚に陥るようなカメラワークをしています。お辞儀をしてその店を出る、そこから動画が終わりまして、「商店街に戻るなら」という枠をクリックすると、先ほどの幹に値する動画が「カナリヤ」のところまで映像が進んだ状況でこの動画が再スタートします。そこからまた必死に出汁之介が走っています。こういうふうに進めていって、「くるみ」の動画も、先ほどと同じようにクリックしていただければ、動画が飛びまして、ヒト目線で入店するような感覚になるようにさせていただいています。現在ラーメン「大王」と「ノーザンノース」のほうは取材を交渉させていただいています。

時間がないのですごくはしょりましたが、こんな感じで取材をさせていただいて、動画をアップしていています。ぜひ、時間があればごらんください。現在も取材続行中です。どうぞ期待ください。

ご清聴ありがとうございました。これで全ての発表を終わらせていただきます。(拍手)

○司会 ありがとうございます。第3報告は、大野さん、藤澤さんからいただきました。商店街については、次のものもありますので、引き続いてまずは報告を聞きたいと思っています。ありがとうございました。

第4報告(まちなか振興分野/学生COC支援室選定)

○司会 それでは、第4報告に移ります。これもまちなか振興分野で、学生COC支援室の選定になりますが、武田大貴さんほか8名による報告です。報告題名は「商店街における実践活動～利尻町杓形商店街での活動を通して～」ということをお願いいたします。

○武田氏 皆さんこんにちは。情報メディア学部地域創造学科の3年武田と申します。よろしくをお願いいたします。これから、利尻町杓形商店街における活動を通して、9月2日から9月5日の4日間の活動報告をさせていただきます。



今回の活動の舞台となったのは、利尻町杓形商店街です。そして、こちらが私たちの活動の拠点となったNPO法人利尻ふる里・島づくりセンターの島の駅という場所になります。

ここからは、私たちの活動を三つに分けて紹介させていただきます。

まず一つ目は、海藻押し葉コンクールの展示準備のほうになります。海藻押し葉コンクールとは何かというのを説明する前に、利尻島の海藻の問題についてまず説明させていただきます。利尻島周辺には100種類以上の海藻が生息しており、そのほとんどが漁業の支障となる害藻となってしまう。これらを何とかするにしても、処理や時間や費用もかかってしまいます。この厄介なものたちの活用方法はないかということで行なったのが、こちら海藻押し葉コンクールになります。

私たちが、こちら今回展示準備のほうを携わっていた際に気づいたのが、この作品たちが全国各地から送られてきたものであり、道内や関東圏を中心に、遠くは沖縄圏からの作品もありました。利尻島は全国各地から注目されているということが、ここで私たちはわかりました。そして、作品数はなんと240点以上あり、これらの作品を杓形商店街の空き店舗を中心に七つの会場に展示いたしました。

こちらの写真は、私たちが実際に携わった際の写真になります。2番の写真を、作品を展示する網を空き店舗に設置している様子になります。ごらんのように、左上のほうですが、雨が降る中の作業もありました。そして、こちらは網に作品を実際に展示している様子になります。こちらの写真のほうは看板の作製をしたり、右の写真は段ボールを切り、作品のネームプレートを作製したりしている様子になります。こちらが実際の展示されている様子になります。

二つ目は、杓形商店街の現状と課題を考えるグループワークを行なっていきました。私たちが利尻島に来て初めに行なったことが、これから報告させていただくグループワークにも関連してくる商店街めぐりで、そして、おのおのが見たり聞いたりしてきたことをまとめたものがこちらになります。しかし、利尻杓形商店街は、空き店舗が多いために、雰囲気は暗い、活気がなくて寂しい、人通りが少ない、閉塞感がある、利尻らしい魅力がよくわからない、どこにでもあるような商店街であり、ここが本当に利尻なのかとってしまうなど意見が出されました。

そして、海藻押し葉コンクールの準備などを通し、島民の方たちと触れ合うことによって、学生の商店街に対する印象が変わっていきます。まず、各学生が商店街に対してどう印象が変わったかを出してもらい、それぞれを①印象・感じたこと、②若者、③PR・広報というように、三つにグループ分けを行ないました。

まず①の印象・感じたこととしては、挨拶が当たり前でできる関係性という点では、稚内の商店街よりも人と人とのつながりというのは強いと思いました。②若者という点では、商店街で若

者をほとんど見かけなかったことから、彼ら彼女らは普段何をしているのだろう、どうすれば商店街に来てくれるのだろうという疑問が湧いてきました。③PR・広報という点では、商店街っぽさがなく、今回のイベントに関しては、島内やネットなどを見ても、ポスターや案内など十分ではないという意見も出ました。

ここからは三つ目に町長、イベント関係者の前でのプレゼンにもつながってくる、もし予算があったとしたら、杓形商店街でどのようなことがしたいか、できるかということを経験者たちでまとめ、利尻町長やイベント関係者の方たちの前でプレゼンを行なってきました。まとめるに当たって、利尻町や杓形商店街にあったらいいもので、どのようなことをしたいのかというものを書き出しました。こちらのグループワークの模造紙は、私の右手側のこちらに展示してありますので、お時間のある方はぜひご覧ください。

次に、利尻町杓形商店街の強みとなる部分を書き出し、その強みと、あったらいいものを組み合わせ、最終的にどのようなことを行なっていけばいいかということまで考え、提案するまでに至りました。

その提案した内容が、こちらになります。まず一つ目です。会員制の海産物展です。若者は携帯ゲームにおいて課金などをするという傾向にあり、例えば昆布の定期購入で40ポイントたまり、これらのポイントをためていくと100ポイントためたら宿泊、150ポイントでウニの取り放題などのユニットリズム、昆布ツーリズムなどの事業を考えました。

二つ目は、若者の流出をとめるということで、一つは商店街を昆布ロードなどと名前をつけてはっきりさせ、その中でこの商店街に対する思い入れを強くしてもらいます。さらに若者に利用してもらい、より一層思い入れを強化する。また商店街の空きスペースを活用するために若者に起業してもらおう。その起業のための勉強に一定の補助金を出す。さらに若者のタレント養成事業など提案していきました。

三つ目は、これが一番現実的な提案かと思いますが、海藻押し葉の商品化やオークションなどです。これだけクオリティーの高い作品であれば、商品化も可能ですし、今後の海藻押し葉コンクールの前例やイベントの安定運営にも貢献できるのではないかと思います、こちらの三つを提案していきました。

このように最終日には、学生やイベント運営者の方たちと今回の事業に関して思っていることや学んだことなどを交流し合いました。

そしてここで、この4日間の活動を4年の白石さんが動画としてまとめてくださったものがありますので、ご覧ください。

(動画を流す)

ありがとうございました。

ということで、4日間の活動を通してのまとめに入っていきたいと思います。まず、一つ目、人がつくったものや作品などを大切に扱い、気持ちや思いをしっかりと酌み取り、引き継いでいくことで、出展者の方たちが展示されている作品を見たときに、雑多に扱われていたり、作品が見えにくい場所に置かれていたりすると、やはり出展者の方たちは悲しい気持ちになってしまうということから、相手の気持ちを考え、誰かのために努力するということを学びました。

二つ目は、先ほども何回か出ていたのですが、「おはよう、こんにちは」のような挨拶が当たり前前に言い合える関係性です。稚内にいると、初対面で、誰かに挨拶することは少ないと思います。ですが、利尻では初対面である我々に、向こうから挨拶をしてくれる、その挨拶がとても心地よいものであり、強くつながりを感じられるひとときでした。

三つ目は、私たち大学生は、いつでも利尻島へ行けるわけではないので、地元の若者が活躍できるような仕組みづくりを行なってほしいと思います。その一つは、先ほども私たちが提案した中の一つで、若者の起業支援や、タレント養成などが挙げられます。このようなことを稚内の商店街でも活かしていけるよう学生たちが活躍できるような仕組みづくりをもっと行なっていけたらと思います。

今回は、ご清聴ありがとうございました。(拍手)

○司会 ありがとうございました。商店街における実践活動という切り口で、第3報告、第4報告と続いてお聞きいただきました。

ここで、この分野、まちなか振興分野でありますし、学生COC支援室から選定いただいておりますので、コメントを若原室長と、それから侘美室長からそれぞれ頂戴したいと思います。まず初めに、学生COC支援室長の侘美先生、お願いいたします。

○侘美氏 皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。稚内北星大学准教授の侘美と申します。

今回、第3報告と第4報告に関しましては、どちらも私が教員という立場で指導して、実際に学生の中に入って学生と一緒に活動していましたので、私は、今回の第3報告、第4報告に関しましては、学生がどのように変わったかという、学生的な目線からちょっとお話をさせていただきたいと思います。

まず、初めに申し上げたいのは、第3報告も第4報告も、授業とは別の課外活動として行なっているという側面で、第3報告に関しましては毎週土曜日をつぶしながら、土曜日に商店街のほうに行って動画を撮影する。また第4報告に関しましては、夏休み中の4日間を使って利尻島に行き活動していました。また、補足ですが、映像の指導は私では当然できませんので、こちらに

関しましては、牧野非常勤講師のお力をいただいたということを補足させていただきたいと思えます。その上で動画の撮影や、利尻町における活動のほうをやってもらいました。

学生たちは、大学で見せる、普段の授業中に見せている顔とは違う顔を見せてくれたというのが、私の一番印象的なところでした。普段大学の授業では、何かちゃんと聞いているのかな、大丈夫かなというふうに見えるような学生も、地域の中に出ていくことによって、何か自分らしく、自分もちゃんとしなければいけないという気が芽生えるのかわかりませんが、非常に普段大学では見ることができない新たな顔を見ることができたなというところが非常に印象的でした。

また、地域の方々からの視点としましては、学生が、若者が商店街を歩いているという声を、何かいいね、そういう声がいいねということを多くの方から伺いました。それは、稚内においてもそうでしたし、利尻においても全く同じようなことを言われました。ですから、最後の内容報告の中にもありましたが、これから私たち大学が地の拠点として考えていく、進んでいく方向の一つとして、これから商店街に若者をどうやって呼び戻すかということは大きな一つのキーテーマなので、今後、私は研究者としても見ていかなければいけない部分ですし、学生たちにもそのあたりは感じていただきながら、そういった実践を組み立てていく必要があるのかなというところを思いました。(拍手)

○司会 ありがとうございます。引き続き、まちなか振興支援室長若原先生、お願いいたします。

○若原氏 まちなか振興支援室長を担当しております若原といたします。

私のほうは、事業を推進する立場のほうからコメントをさせていただきたいと思えます。まず、中央商店街の学生たちの自主的なイベント企画などについてですが、そもそも、私たちが取り組んでいるまちなか振興、中心市街地の活性化事業につきましては、これまで大学で取り組んできたことというよりは、COC事業によって初めて取り組み始めたことですので、我々としても何ができるか、あるいはどうやったらいいのかということ、当初は手探りで取り組んでいる段階でありました。その中でも学生たちがみずから問題意識を持って、自分たちも中心市街地のまちづくりに参加したいのだと、意欲を持って取り組んでくれたことに関しまして、私たちのほうがむしろ勇気づけられたようなところがあったということで大変ありがたく思っているところです。

それから、商店街の映像づくりのほうですが、こちらにつきましては、当初授業の一環として行なう予定だったのですが、残念ながら、この授業の受講生がいないということで、私たちのゼミに無理を言って取り組んでもらったということではありますが、それでも学生たちは強く問題意識を持って商店街の活性化だからPRしたいのだという思いで取り組んでくれたといったことで、大変こちらとしては助かった事業になりました。

それから、最後の利尻の杓形商店街の取り組みですが、これは正直申し上げますと、私のほうは余り参加していなかったのですが、今回の報告を見せていただきまして、そちらに張ってあるラベルワークの成果ですとかを見てみますと、普段日常の中で学んでいることだとか、地域活動で学んでいることをまさに生かして、実際にその地域で活動をしていくという様子が見られて、学生たちの成長がよく感じられて、ちょっと手前みそではありますが、少し感動しながら見ていたというところでした。

そんなことで、学生たち、この第3報告、第4報告だけではありませんが、地域で今一緒に頑張っている活動していますので、地域の皆様初め、そういった学生を見かけましたら温かく見守ってご支援していただければと思います。

以上です。(拍手)

○司会 ありがとうございます。それでは、ちょうど16時になり始めておりますので、口頭報告についてはこの辺で終わらせていただきたいと思います。

最後に、学部長から挨拶がありますが、その前に事務局からご案内をさせていただきます。お願い1点と案内が2点ございます。まずお願いなのですが、お手元の資料の中にアンケート調査を挟ませていただいています。ぜひこちらのほうお書きいただいて、お帰りの際、出口で受け取りますので、ご協力をお願いしたいと思います。今後のCOC事業の推進、それから反省も兼ねて使わせていただきたいと思います。また、ご感想、激励の言葉いただけましたら幸いです。よろしくお願いいたします。

それから、ご案内が2点あります。1点目ですが、この後の時間、プログラムにも書いておりますが、地域志向研究経費というCOC事業に絡んで、学内公募の研究費が出ています。その関係の発表をポスターで4点ほど並べておりますので、こちらのほうについてもごらんいただければと思っております。あわせて、先ほどの第4報告についての補助資料も張っておりますので、ぜひごらんいただきながら担当の教員とディスカッションしていただければ幸いです。

最後にですが、明日の13時30分から北海道宗谷総合振興局で道民フォーラムが開催されるそうです。隣の名寄市立大の学長とか、十勝バスの野村社長、あるいはNPO法人の谷川理事の先進事例の報告もございます。振興局より学生の方もぜひお越しくださいという言葉をいただいておりますので、よろしければ、ここにお集まりの皆様、明日も足を運んでいただければと思います。それでは、時間になりましたので、最後に事業推進責任者である齊藤学部長よりご挨拶で締めさせていただきます。

○齊藤学部長 最後のご挨拶をさせていただきます。振り返りますと、このCOC事業、地(知)の拠点整備事業は、平成26年度の採択ということで、5年間で、平成30年度までのものですが、平

成26年度は採択されたといわれても、実際に決まったのが9月、10月で、お金が入ると決まったのがもっと後でして、平成26年度は実際にはほとんど進捗ありませんでしたが、それでも、もともと地域教育支援ということで、グングン塾の実践もありましたので、平成26年度の第1回目のときには、その報告を主にさせていただきました。その後、実際に地域教育支援以外の観光まちづくりと、それから中心市街地活性化の課題についても、今見ていただいたような活動を実際に行なうことができるようになりまして、皆さんの前でこういうふうにご報告できるということになりました。

そもそもこの地域活動報告会は、学生たちが地域で実践したことを見ていただいて、励ましていただく場にしたいと設けたものでした。その意味では、本日は、フロアからの発言が残念ながらなかったです。ただ、この後アンケートにもぜひご記入いただいて、率直に感じられたこと、あるいはもっとこうすればよかった、あるいはこんなところで学生を見て非常によかったとかを書いていただきますと、今後の学生の励みになりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

聞いていて、やっぱり地域に出ることではか学べないことを、学生たちがきちっと学んでくれていると思います。とりわけ第1報告では、学習支援、学習そのもの、中身だけではなくて、その子どもがどういう環境の中で、どういう地域の中で育ってきたかということも見据えないと、きちんとした教育はできないということに気がついた。これは単に学校の中で学んでいたのではわからないことでしょうし、第2報告では、他の地域、東北に行くことによって、この稚内、宗谷という地域を相対的に客観的に見るという目を持つことができたでしょうし、第3の報告では、実際に町の人と交渉するとか、交流するという通じて、プロジェクトを推進するということの困難さというものも学ぶことができたでしょうし、第4報告では、地域の特性を生かしながら、マーケティングを実際に行なうという提案までいくと、それが実際にまだ行なわれているわけではありませんが、その入り口まで、こういったまちに触れて交流しながら、何か実際に行なうということではか学べないことを、いっぱい学んできてくれていると思って、本日聞いていて、私も非常に励まされましたし、誇りに思っています。

今後とも、皆さん、宗谷地方の方々の協力なしにはこのCOC事業を進められませんし、とりわけ、学生が街に出ていったときには、ぜひ声をかけていただいて、できることは一緒に取り組んでお手伝いいただきたいなと思っています。

本日はこれだけたくさん来ていただきまして、本当にありがとうございました。また今後ともよろしくお願ひいたします。(拍手)

○司会 それでは、口頭発表の部はこれで終わらせていただきます。皆さんご多用のところ足を運んでいただきまして本当にありがとうございました。

2. ポスター報告（報告資料）

第3回となる今回は、地域活動の広がりを背景に、地域活動事例が増加したため、口頭発表に加えてポスター発表を導入した。

今回は、本年度の地域志向教育研究経費採択課題4件の研究計画について、ポスターにて報告した。

採択課題一覧

○ 研究計画1／地域観光分野

終 和佑、小谷 彰宏（以上、情報メディア学部准教授）

地域内在型物語の制作・蓄積・提供手法の構築

○ 研究計画2／地域観光分野

黒木 宏一（情報メディア学部講師）、南 満幸、

相原 成史、岩本 和久（以上、同教授）、藤崎 達也（同講師）、高 澍（同特任助教）

インバウンドを意識した観光施設づくり—本学のシーズを活かした地域連携の試行—

○ 研究計画3／地域教育分野

侘美 俊輔、若原 幸範（以上、情報メディア学部准教授）

「南中ソーラン」の今日的意義と課題の検証

○ 研究計画4／地域教育分野

安藤 友晴、佐賀 孝博、浅海 弘保（以上、情報メディア学部教授）、小泉 真也、ゴータム ビスヌ・プラサド（以上、同准教授）、米津 直希（同講師）

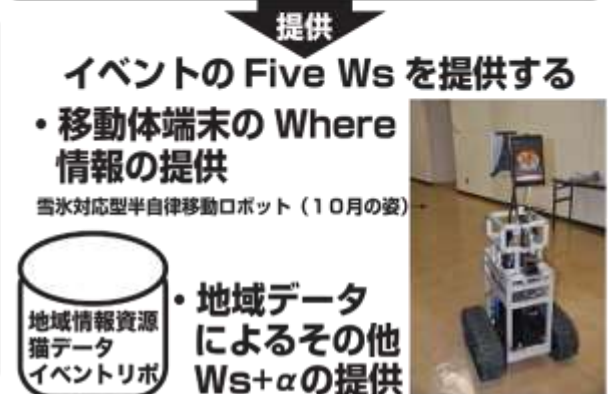
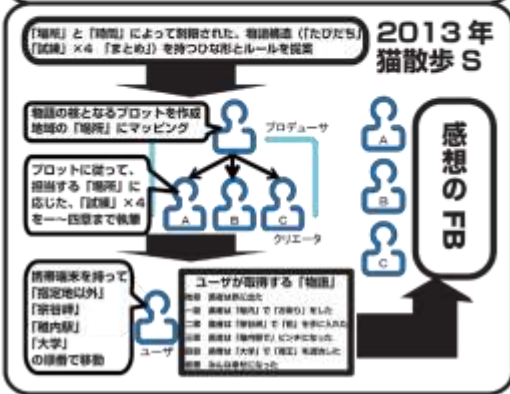
稚内市のICT利用教育：実態の把握と教員向け研修カリキュラム策定

地域内在型物語の制作・蓄積・提供手法の構築

柘和佑・小谷彰宏

大きな目的 地域情報をデジタル化（易利用化）することで地域住民の生活環境の向上を目指す
 地域住民がその地域を再発見する＝その地域を好きになる
 住民以外に地域のファンが増える＝観光客による地域の活性化
 n次的に情報資源が増加していく＝観光と地域の幸せな関係

まちの発展



動的情報を風雪に耐えながら街に提示し続けるためにロボットプロジェクションマッピングを利用する！



※2014年に作成されたイメージ

平成27年度稚内北星学園大学地域志向教育研究経費採択課題

インバウンドを意識した観光施設づくり — 本学のシーズを活かした地域連携の試行 —

研究代表者/共同研究者：黒木 宏一 / 南 満幸・相原 成史・岩本 和久・藤崎 達也・高 淵

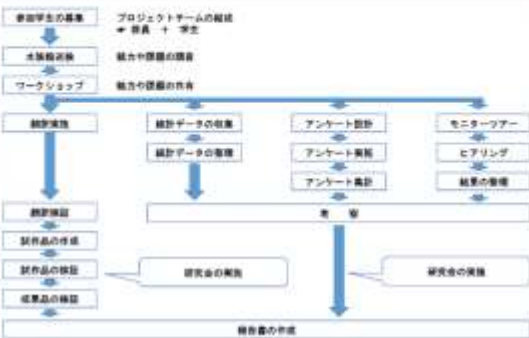
<採択課題の内容>

平成22年に策定された「稚内市観光振興計画」では、外国人観光客が重点顧客と位置づけられており、地元観光事業者の間ではロシア人以外にアジア諸国からも多くの観光客が訪れている現状と、観光客の拡大には海外旅行者対応が欠かせない要件であることが述べられている。(稚内市観光振興計画のページ)

このような中で、観光施設においてインバウンドへの対応が未だ不十分である現状が見受けられる。たとえば、ノシャップ寒流水族館では、中国人(含米)を中心に観光バスで接待しているものの、館内の表示説明が日本語のみで、楽しみ方がわかっていない。

そこで、本研究は、本学のシーズを活かしてこの課題の解決を図ろうとするものであり、その過程を整理し検証しようとするものである。具体的には稚内市ノシャップ寒流水族館における館内の表示説明の多言語化を行う。その他、本学のシーズである留学生の存在(英語、ロシア語、中国語)と専門家の存在(英語、ロシア語、中国語)を活かすとともに、適切な方法でこれを実現するという経済的、旅行行動論的側面も合わせて検討する。

<プロジェクトの全体像>



<学生メンバー・作業従事学生：平成27年9月30日現在>
門田貴伸、白石拓也、田嶋かおり、Pan, Denbar, 白根印、坂川秀代、藤井みのり、武田大貴、Narayan, Sharme, Batajoo, Amit, 濱田百代、マールコフ カネリーナ、山田沙萌、伊藤高平、伊藤繁之 (学年・学年後、学年前)
※ 以上のほか、ワークショップやモニターツアー等に多数の一般参加者、学生、教職員が参加し、協力いただいている。

<プロジェクトの産物>

- 教育効果**
- ・新設のプロセスを知る
 - ・連携のプロセスを知る
 - ・マーケティングの理解
 - ・消費者(海外)行動の理解
 - ・経済性の理解 など
- 研究**
- ・シーズの提供
 - ・地域連携プロセスの事例研究 など
- 地域貢献**
- ・地域連携による観光施設の向上
 - ・インバウンドへの対応強化 など

<プロジェクトの発展可能性>

- 本学ならではの視点として**
- ・スマートフォン等電子端末検索への対応
- ニーズへの対応**
- ・中国語(漢字・簡体字)への対応
- 事業効果の検証**
- ・多言語化事業の効果の検証の継続(海外からの来館者増加)
- 他施設への応用**
- ・このプロジェクトのプロセスを他の施設へ応用し、研究・教育・地域貢献の幅を広げる

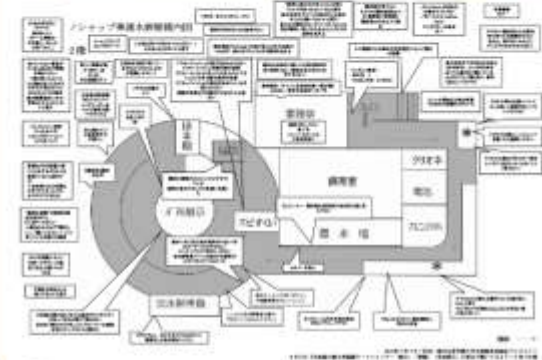
プロジェクトに関する記事・発表
○本学「地域観光支援活動レポートNo.10」(5/2016) ○稚内プレス「水族館英語と露語で外国人接待成す」(5/2016,1面) ○本学「地域観光支援活動レポートNo.11」(4/2016) ○日共京京「外国人語のガイドブック 稚内北星学園大学水族館のサービス向上」(4/2016,3面) ○北海道新聞「外国人向けに寒流水族館解説 稚内北星学園大生らガイドブック作成へ」(4/2016, 新聞・朝刊23面) ○北海道新聞「大学の力地域観光に」(7/2016, 産経9面)

<現在までの活動の系譜>

- 平成27年4月1日 プロジェクト開始
- 4月17日(土) プロジェクト説明会(後)参加 学生参加の呼びかけ
- 5月16日(土) 10時30分～ 第1回選抜



- 6月13日(土) 10:00～ 水族館の魅力再認識ワークショップ 一「魅力」「課題」「多言語化」の視点で観てみよう～ 場所 ノシャップ寒流水族館(参加費：2階 講堂) 内容 近接を踏まえた「魅力」「課題」「多言語化」の情報共有
- 8月18日には館内を視察する選抜を実施し、多くの気づきを得た。このワークショップは、メンバーや関心がある皆様で「気づき」を持ち寄り、共有し、プロジェクトに一部の魅力を付加することを目的とした。
- 10:00～10:15 ミニレクチャー(海峽通信 講師) 観光の情報提供！サインや看板で補うものとそれ以外、教えて全ての情報を考えない手法!!
- 10:15～ 館内展示視察(南館の裏回り)
- 10:45～ 「気づき」の持ち寄り



- 7月20日(土・祝日) ノシャップ寒流水族館留学生モニターツアー～外国人の視点から水族館の魅力と課題に迫ろう～
- 8月～ ガイドブック制作開始 ●日本語版ラフデザインの作成を経て、現在、学生による英語・ロシア語翻訳作業が続いている。



平成27年度稚内北星学園大学地域志向教育研究経費採択課題

「南中ソーラン」の今日的意義と課題の検証

○侘美 俊輔 若原 幸範

研究目的

本研究は、稚内発の「南中ソーラン」を「教育学」と「体育学」という2つの視角から重層的に検証し、今後の課題解決と「地域の教育力向上」に向けた基礎的な方向性を提示することを目的としている。本研究では「南中ソーラン」を「郷土芸能(文化活動)」の1つとして位置づけ、体育学と教育学(社会教育、学校教育)の相互作用に目を向けながら、今日的意義と課題を検証しようとするものである。

稚内発の南中ソーラン

- 1993年第10回「民謡民舞大賞全国大会」
グランプリ(内閣総理大臣賞)
- 映画「稚内発一学び座」
- TVドラマ「3年B組金八先生」第5シリーズ
「NHK紅白歌合戦」
- 2010年の「上海万博」における演舞

稚内発の「南中ソーラン」は日本国内、さらには世界へ発信されている

郷土芸能と教育の相互作用(先行研究)

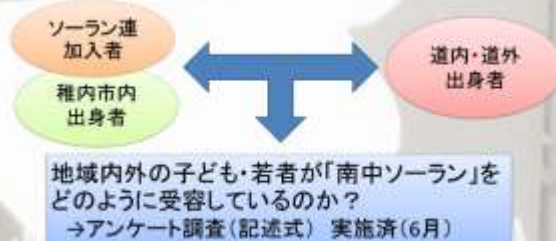
- 大塚美栄子ら(1993)
北海道朝日町(現士別市)の「瑞穂獅子舞」
- 足立重和(2004)
岐阜県郡上市の「郡上おどり」
- 阿部未幸(2014)
岩手県岩泉町「中野七頭舞」

伝統芸能を「身体を通じて直接的に体験することは、「学習者の感受性や価値意識」、「地域アイデンティティの形成」や「郷土愛」の定着に役立つとされる

申請者らの問題意識

- ①地域内外において現在の子ども・若者たちは「南中ソーラン」をどのように受容しているのか？
- ②「子育て運動」(地域教育)および地域づくりにおける「南中ソーラン」の本質的な意義は何か？
- ③ローカルなコミュニティから発生した新しい郷土芸能・地域文化が広く受容されていく過程と、その過程において生じる矛盾は何か？

①「スポーツ I」履修学生の意識



②「子育て運動」との関係性



「子育て運動」と「南中ソーラン」の本質的な関係性は？

③「南中ソーラン連」による自主的な伝承活動

地域の郷土芸能を守り育てる行為を若者が主体的に実施していく点
→今後の「地域づくり」や、「生活の場を守る」という点で非常に有益

彼・彼女らがなぜこのような活動を継続しているのか？

研究計画

- ①「南中ソーラン」関連、「子育て運動」関連の文献レビュー
⇒ダンス、舞踊、踊りなどの体育学領域の文献
「子育て運動」に関する稚内市、市内各校からの資料収集
- ②学校教員(体育)、退職教員、市役所へのインタビュー調査
- ③本学学生たちへのアンケート、インタビュー調査
- ④南中ソーラン連への参与観察
⇒参加者へのインタビュー調査

本研究は、個人情報保護の観点から、個人情報、その他個人が特定されないように十分配慮する。また聞き取り調査の実施に際しては、調査協力への同意を得られるよう事前に十分に説明する。

平成27年度 稚内北星学園大学地域志向教育研究経費

稚内市のICT利用教育: 実態の把握と教員向け研修カリキュラム策定

稚内北星学園大学情報メディア学部
安藤 友晴 (研究代表者)
佐賀 孝博 / 浅海 弘保 / 小泉 真也
ゴータム ビスヌ・ブラサド / 米津 直希

地(知)の拠点 稚内北星学園大学 1

本研究の概要

本研究は、稚内市におけるICT利用教育の充実のため、稚内市の小学校および中学校の教員に対してICT活用に関する実態を把握するとともに、その分析結果をもとに小学校および中学校の教員向けのICT利用教育に関する研修カリキュラムを策定するものである。

地(知)の拠点 稚内北星学園大学 2



地(知)の拠点 稚内北星学園大学 3

本研究の背景

- 小学校・中学校の教員を対象としたICT機器活用研修会の実施 (2014年度)
 - 稚内市教育委員会および稚内市教育研究所と共同で実施
 - 研究代表者が講師を担当
- 受講者のICTに関する前提知識を初心者レベルと仮定した。
- 概ね好意的な反応だが、以下の反省点も。
 - 受講者のICTに関する前提知識を初心者レベルとして仮定して研修会を実施したため、十分な知識を有する受講者にとっては平易すぎる研修内容であった。
 - 研修会の達成目標が曖昧であったため、研修会で何をどこまで扱えば良いかを明確にできなかった。

地(知)の拠点 稚内北星学園大学 4

本研究で明らかにすること

1. 稚内市の小学校および中学校の教員のICTに関する習熟の度合いを明らかにする。
2. 稚内市の小学校および中学校の教員がICTを使ってどのような教育を行いたいのか明らかにする。
3. 教員が授業でICT機器を活用するためにはどのような知識が必要なのか明らかにする。
4. 稚内市におけるICT利用教育に関する教員向けの研修カリキュラムを策定する。

地(知)の拠点 稚内北星学園大学 5

本研究の意義

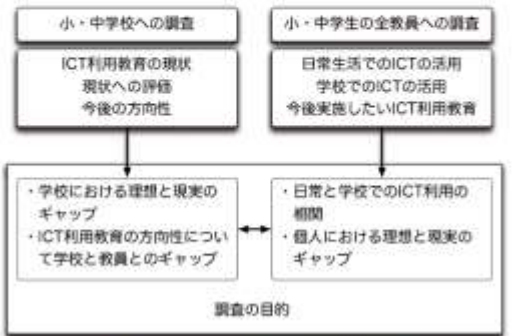
- ①児童・生徒ではなく教員を対象とした研究であること
小学校および中学校の教員を対象とすることで、ICT利用教育を指導できる教員を増やし、その結果として児童・生徒の学力向上に繋がることが期待できる。
- ②ICT利用教育に関する教員向けの研修カリキュラムの構造を明らかにすること
日本国内における研修カリキュラムの規定に活用することが期待できる。
- ③稚内市のICT利用教育の充実に貢献できうること
ICT活用に関する稚内市の教員の現状と期待を数値にすることで、稚内市の現状に適した研修カリキュラムを策定することが期待できる。

地(知)の拠点 稚内北星学園大学 6

研究計画

- ①稚内市内の小学校・中学校の学校および教員に対する質問紙調査
集計
- ②ICT利用教育に関する教員向けの研修カリキュラムの課題分析
日本各地で行われているICT利用教育の優れた実践例を教育学的手法で分析し、それらの実践例を実施するためにはどのような知識が必要なのか明らかにする。
- ③稚内市のICT利用教育に関する教員向けの研修カリキュラムの策定
①②の成果をもとに、教育学的手法を用いて稚内市の現状に適した研修カリキュラムを策定する。

地(知)の拠点 稚内北星学園大学 7



地(知)の拠点 稚内北星学園大学 8

3. アンケート集計結果

<調査の概要>

実施年月日	平成27年10月20日
出席者数	86名
調査票回収数	59枚（出席者数に対する回収数の割合 68.6%）

<凡例>

- 1) 当該設問に対する回答数を「n=」で表記した。
- 2) 自由記述については、回答者の意図を損なわぬよう、原則として原文の形で取りまとめた。

<結果の概略>

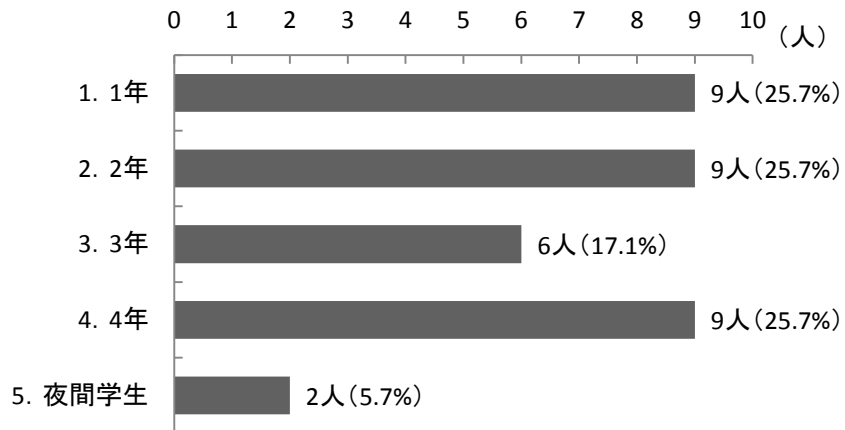
当日参加された86名のうち59名(68.6%)から回答を得た。

「報告会に来てよかったと思いますか。」との質問に、大変良かった(18.2%)、良かった(60.0%)の回答(当該設問の有効回答数は55)を頂いた。

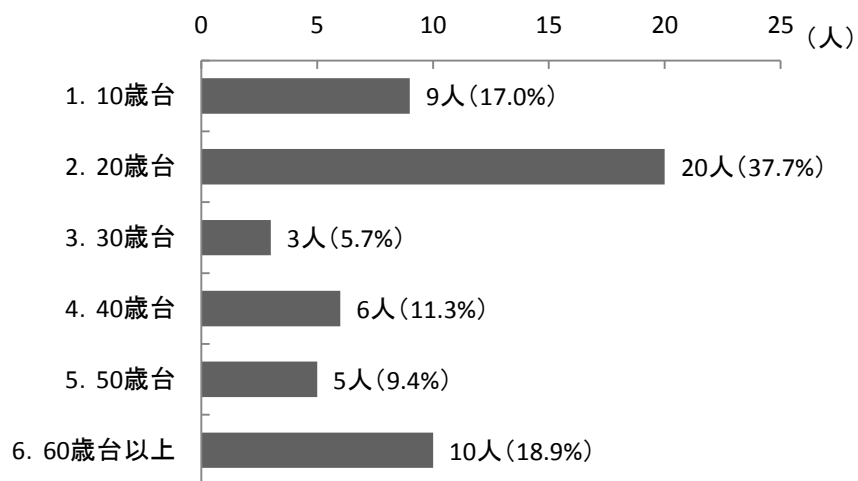
「大変良かった」と回答いただいた方の自由記述には、「各学年、学生が自主的に何を学んでいるかを知ることができた」「COC事業について理解できた」との一般参加者の方の声の他、「関わっていない活動の内容も知ることができた」という学生の声、「よく事例を考察していると感じた」という学生の声、「活動の内容、学んだことがよくわかる報告会だった」との教職員の声もあった。

(1) はじめにあなたの学年 (学生のみ回答)、世代、所属をお聞きします。(各1つに○)

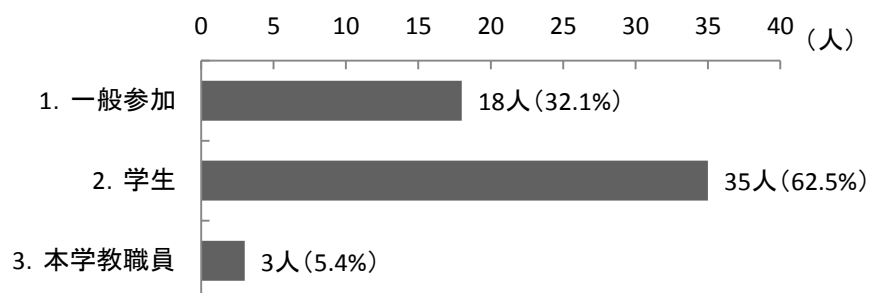
① 学年 (学生のみ回答) (n=35)



② 年齢 (n=53)

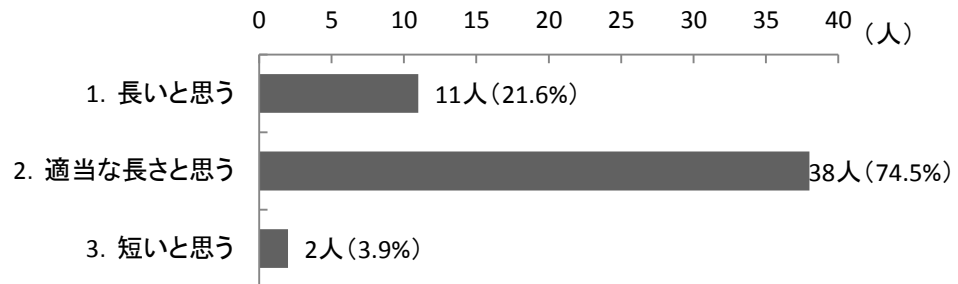


③ 所属 (n=56)

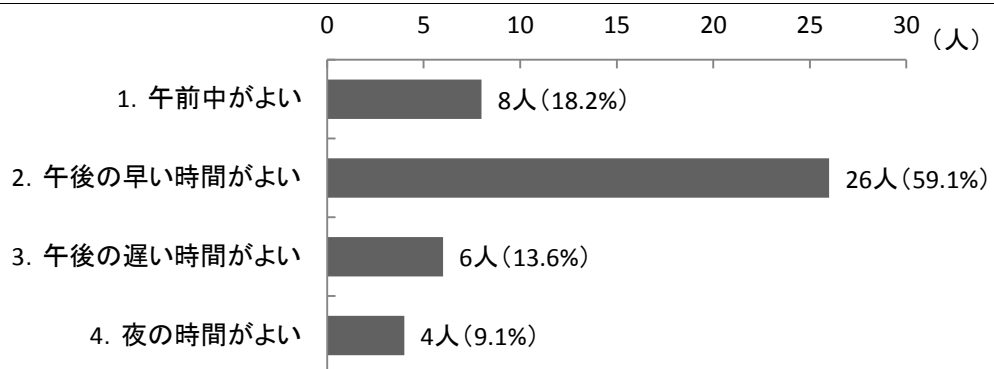


(2) 報告会の長さ、開催時間についてお聞きします。(各1つに○)

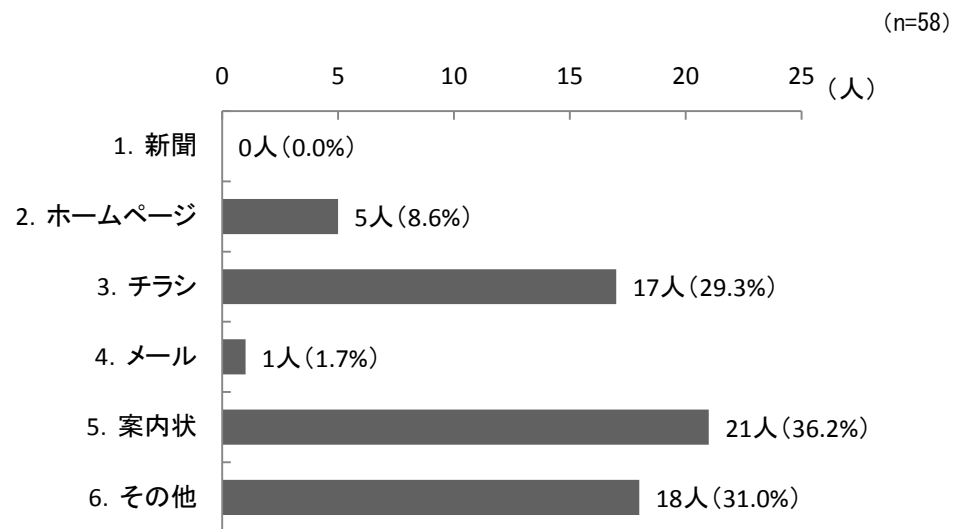
① 報告会の長さ (n=51)



② 報告会の開催時間 (n=44)



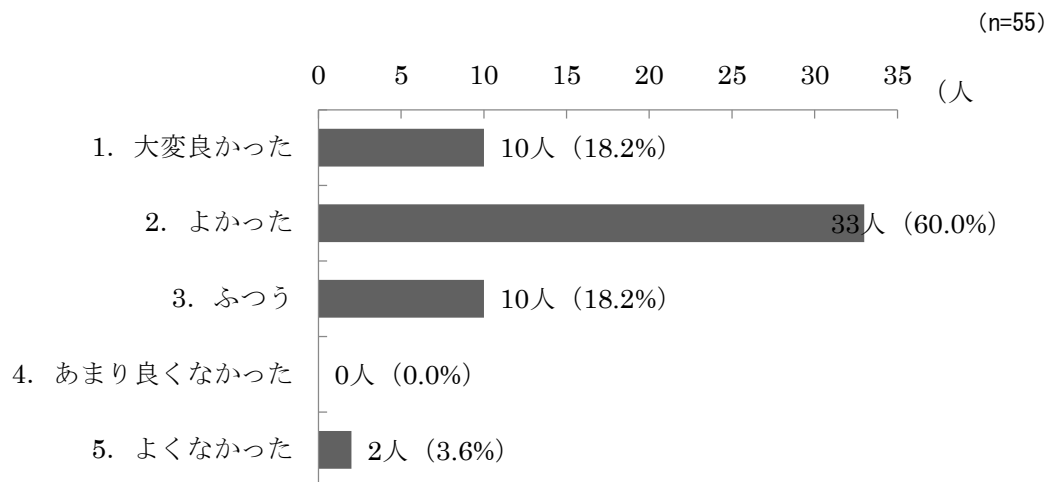
(3) 今日の報告会を何で知りましたか。(複数回答可)



<その他の記述>

- ・ line
- ・ 学校
- ・ 関係者
- ・ 教員
- ・ 教授
- ・ 講義 (5名あり)
- ・ 大学
- ・ 大学職員からの紹介
- ・ ポスター
- ・ フェイスブック
- ・ 友人

(4) 報告会に来てよかったと思いますか。(1つに○)



「1. 大変良かった」を選択した理由 (自由記述)

- ・各学年、学生が自主的に何を学んでいるかを知ることができた。(一般)
- ・COC 事業について理解できた。(一般)
- ・社会人との考えの違い。(一般)
- ・自分の知らなかった活動と内容が聞けて楽しかった。(学生, 1年)
- ・学生たちの取り組みが見られてよかった。(学生, 2年)
- ・関わっていない活動の内容も知ることができた。(学生, 2年)
- ・各々の発表に関して、よく事例を考察していると感じた。(学生, 3年)
- ・学生の報告が中心で、活動の内容、学んだことがよくわかる報告会だったため。(本学教職員)

「2. よかった」を選択した理由 (自由記述)

- ・学生の真剣な姿を確認できた。
- ・学生の取り組みが知れたこと。(一般)
- ・学生が一生懸命に取り組む姿勢が感じられたから。(一般)
- ・学生たちが頑張っている様子がよくわかりました。(一般)
- ・学生の取り組み状況が分かった。(一般)
- ・学生さんたちが、意欲的に事業に取り組んでいることがよくわかった。(一般)
- ・各活動の内容を知ることができたため。(学生, 1年)
- ・教職に関連することを聞くことができたから。(学生, 1年)
- ・様々な活動内容を聞いた。(学生, 1年)

- ・大学に入ったばかりで、どんなことをしているかわからなかったのに、いろんなことを実施しているのを知れてよかったです。(学生, 1年)
- ・自分の知らないところで行なわれている活動について深く知ることができたため。(学生, 1年)
- ・どんな活動をしていて、今後の活動がわかりやすかったです。(学生, 2年)
- ・自分が活動しているゼミ以外の活動を知ることができた。(学生, 2年)
- ・様々な活動を通し、意見を聞くことができた。(学生, 2年)
- ・普段、聞けない内容の活動を聞くことができ、今後のまちづくりにもつなげていけるのではないかと思った。(学生, 3年)
- ・自分で体験していないことや知らなかったことが知ることができた。(学生, 3年)
- ・今後の取り組みについてもふれていたため。(学生, 4年)
- ・もっと工夫した発表が欲しかった。(学生, 4年)
- ・自分たちの活動について参加してくださった方々を中心に知ってもらうことができた。(学生, 4年)
- ・広いジャンルからの発表でよかったから。(学生, 4年)
- ・学生が様々な場面で、頑張っている様子を知ることができました。(本学教職員)

「3. ふつう」を選択した理由 (自由記述)

- ・興味深いものがなかった。(学生, 1年)
- ・いろいろな報告が聞けて良かったため。(学生, 1年)
- ・どのような活動があったのか理解できた。(学生, 2年)
- ・時間が昼過ぎということで、本学学生の顔が多かったと思う。時間帯などを考えて学外の人を呼ぶべきでは。(学生, 3年)
- ・地域教育分野はいつも同じ内容。(学生, 2年)
- ・地域教育支援は教師になるために人間として巾ができる。(一般)
- ・学生が地域のために役立ちながら(戦力)学んでいることが理解できた。(学生, 夜間学生)

(5) 今後、このような会で取り扱ってほしい内容や話題（学生、本学教職員は行ないたい内容や話題）をお聞かせください。

- ・この取り組みを継続し、また発表の場を作ってほしい。(一般)
- ・稚内の特性を生かした、学生がイベントを企画し講演者や企業など交渉して行なうようなことができないですか。(一般)
- ・今後のまちづくりと真剣に(現実)にできる話し合い。(一般)
- ・卒業生の方から現在の学生の方が学ぶ機会が今後増えるかと思えます。そこに期待しています。(一般)
- ・大学がかかわった事業の報告会。(学生, 1年)
- ・様々な人が楽しめる内容のもの。(学生, 1年)
- ・様々な体験をしたい(ジャンル問わず)。(学生, 1年)
- ・学生がかかわった活動。(学生, 1年)
- ・情報系。(学生, 2年)
- ・もう少し一つ一つの発表に時間が欲しかった。(学生, 2年)
- ・教職員による学生への期待や、COC事業に対する市民への発信、説明。(学生, 3年)
- ・学生の取り組みは、COCであろうと、なかろうと発表する機会を設けたほうが良いと思う。(学生, 3年)
- ・活動内容(各ゼミ)、稚内市のイベントなど。(学生, 3年)
- ・短い時間で説明することはやはり難しい。(学生, 4年)
- ・民間の人の声も取り上げてほしい。(学生, 4年)
- ・ひきつづき、教職のグングン塾などの活動について、どんな変化、学びがあるのか、など報告があればと思います。(学生, 4年)
- ・時間帯が悪い。(学生, 4年)
- ・IT関係のもの。(学生, 4年)
- ・卒業後の就職先、特に地元企業の紹介や仕事の内容など具体的に知りたい。(学生, 夜間学生)
- ・学生の学んでいること、活動していることなどを紹介するこのような会は、とても大切だと思います。もっと市民の皆さんにも来ていただけるような会になればと思います。(本学教職員)
- ・関わった方との対談形式の報告(発表)会。(本学教職員)
- ・対象者(学校関係者や商店街の関係者、行政担当職員)などの観(感)想を聞く機会があればと思う。

- ・これらの話題を今後とも続けてほしい。

(6) さいごに、各報告についてご感想や激励のメッセージがありましたらお聞かせください。

報告① 地域教育支援と教職としての学び

- ・体験と子どもたちとの関わりの重要性。
- ・見つけた課題などをしっかりと掘り下げを調べて尽くしてください。またそれを自分のものできるように頑張ってください。(一般)
- ・立派な教職員になられることを期待しています。(一般)
- ・体験を大切に今後に活かしてください。(一般)
- ・活動から発表まで、授業外も含めご苦勞様でした。「学生」というだけで持っている価値もあります、頑張ってください。(一般)
- ・内容は良いが、成果や課題を丁寧に。(一般)
- ・体験を通して、Skype を活用するなどして子どもたちとの関わりを深める実践をさらに充実させてください。(一般)
- ・報告の資料を配り（パワーポイントの資料を印刷）、パワーポイントの使い方の工夫をしてはどうですか、地域への飛び込みは非常に良かった。(一般)
- ・子ども対応は簡単なものではなく、大変だったと思います。子ども気持ちを理解できる教員になってください。お疲れ様でした。(一般)
- ・遠隔学習は小規模教育にとって今後、最も必要であり、そのことに参加できたことは素晴らしい。教育で地域を知ることは重要で、そのことを体験できたことは大切なことです。(一般)
- ・教職をめざし、体験されたことを糧に頑張ってください。(一般)
- ・大変報告がよかったです、ただ一言、地方の特性の良いところだけではなく、負の部分も見るようにしてほしい。(一般)
- ・改善点が猿払村への要望になったのが残念。(一般)
- ・内容資料1枚でもよいのでつけてほしい。(一般)
- ・コミュニケーションを大切に頑張ってください。(学生, 1年)
- ・自分も教職を目指しているので、先輩の発表はとても勉強になりました。(学生, 1年)
- ・教職ゼミだけで様々な活動をしてすごいですと思います。(学生, 1年)
- ・お疲れ様でした。(学生, 1年)
- ・教職の人たちにも教職なりの苦勞があるのだなと思いました。(学生, 1年)
- ・学校にはなじめていない児童の居場所になったことは素晴らしい。(学生, 2年)
- ・教職ゼミとしての活動をこれからも継続してほしい。(学生, 2年)

- ・今後も頑張っていたきたいです。利活用に関してもっと詳しく知っておくとよいかと。(学生, 3年)
- ・教職の方々にとってとても良い経験をしたので、生かして行ってほしいです。(学生, 3年)
- ・とてもわかりやすく、これからも教育を学び続け、へき地を救ってほしい。(学生, 4年)
- ・上手にまとめられていた。(学生, 4年)
- ・写真が比較的多く、理解しやすかった。(学生, 4年)
- ・大学の IT 技術(施設)を利用した学習支援など、これからもどんどん続けてほしい。(学生, 4年)
- ・パワーポイントを上手に使って立派でした。動画が入ると、リラックスして楽しく見たり聞いたり、することができました、皆さんの頑張りに拍手！！ご指導された先生たち、ありがとうございました。今後とも期待しております。(学生, 夜間学生)
- ・全体的に発表内容が長くない(分担しているため)のに紙を読みすぎだと思えます、人に見せているものを本人たちがあまり見ていない→共有できていないという印象です。よかったところはそれができていた人や場面があったということ。(学生, 夜間学生)
- ・とても難しい子どもとも関わりを体験することにより、多くのことを学んだ様子が伝わってきました。(本学教職員)
- ・今後の様々な活動に期待しています。(本学教職員)

報告② まち歩きガイド視察報告

- ・やる気とスキルの問題について検討してほしい。
- ・見つけた課題などをしっかりと掘り下げを調べて尽くしてください。またそれを自分のものできるように頑張ってください。(一般)
- ・体験して得たものや気づきなど、たくさんの方々へ共有してください。(一般)
- ・視察した結果を今後の研究テーマにするということですが、研究だけではなく自ら積極的に参加を！(一般)
- ・活動から発表まで、授業外も含めご苦労様でした。「学生」というだけで持っている価値もあります、頑張ってください。(一般)
- ・目的がはっきりしたらいい。(一般)
- ・地域にスポットを当てた視察から地域おこしに必要な条件を掴み取ってほしいと思いました。(一般)

- ・報告の資料を配り（パワーポイントの資料を印刷）、パワーポイントの使い方の工夫をしてはどうですか、地域への飛び込みは非常に良かった。（一般）
- ・観光分野において大切なものは、視察した地域で成功している分野を地元観光においてどう取り入れることができるかも必要となってきます。「こうすれば稚内でうまくできる」と結論も聞きたいですね。（一般）
- ・着地型観光の体験、地域をアピール、稚内に生かしていただきたいです。（一般）
- ・布目さんが3人分の報告をまとめたことにより、報告として完結したものになった。個々の取り組み部分は活動から学んだことに焦点化してしまったほうがよかったかと思います。（一般）
- ・内容資料1枚でもよいのでつけてほしい。（一般）
- ・成功した観光を学び、地域に生かしてください。（学生，1年）
- ・稚内のアピールにもつながる部分もあるはずなので、これからも頑張ってもらいたいと思います。（学生，1年）
- ・東北まで行ってご苦労様です。（学生，1年）
- ・お疲れ様でした。（学生，1年）
- ・稚内の観光事業に反映できたらいい。（学生，2年）
- ・活動規模の広さと内容の充実性を教育とも融合してほしい。（学生，2年）
- ・様々な場所で事例を学んでもらいたい。（学生，3年）
- ・パワポなどの製作段階から見ていたので、とても頑張っていました。（学生，3年）
- ・研究のテーマが定まったとのことでそれに向けて頑張ってください。（学生，3年）
- ・稚内市も視察に行った知識や体験を生かして観光を活性化してほしい。（学生，4年）
- ・考察に入るまでが少し長い、もっと考察について詳しく知りたかった。（学生，4年）
- ・今後の研究が気になる。（学生，4年）
- ・収穫したことが不明確だった。（学生，4年）
- ・今回の活動を通して「稚内では何かできないか」という実践的なことも考えてみてほしい方と思います。（学生，4年）
- ・パワーポイントを上手に使って立派でした。動画が入ると、リラックスして楽しく見たり聞いたり、することができました、皆さんの頑張りに拍手！！ご指導された先生たち、ありがとうございました。今後とも期待しております。（学生，夜間学生）

- ・全体的に発表内容が長くない(分担しているため)のに紙を読みすぎだと思います、人に見せているものを本人たちがあまり見ていない→共有できていないという印象です。よかったところはそれができていた人や場面があったということ。(学生, 夜間学生)
- ・視察したことから、自分たちの考えをしっかりとまとめて発表していました。(本学教職員)
- ・取材が稚内の観光に活用できると素晴らしいですね。(本学教職員)

報告③ 商店街における実践活動～稚内中央商店街での活動を通して～

- ・街の宣伝ソフトの活動を期待しています。
- ・見つけた課題などをしっかりと掘り下げを調べて尽くしてください。またそれを自分のものできるように頑張ってください。(一般)
- ・市内で行なわれている様々なイベントに運営側の一部としてかかわってみるのはどうでしょうか。(一般)
- ・まちラボの活動、期待しています。(一般)
- ・活動から発表まで、授業外も含めご苦労様でした。「学生」というだけで持っている価値もあります、頑張ってください。(一般)
- ・わかりやすく楽しい、広めたいですね。(一般)
- ・動画も駆使し、わかりやすい。今後の活動に期待しています。(一般)
- ・報告の資料を配り (パワーポイントの資料を印刷)、パワーポイントの使い方の工夫をしてはどうですか、地域への飛び込みは非常に良かった。(一般)
- ・中央アーケード街の空洞化は、稚内市の問題の一つです。Youtube はとても良いアイデアだと思います。学生、若い人たちからみて。アーケード街に何が必要か、どうすれば人が集まるかを意見して欲しいところです。(一般)
- ・まちラボの取り組みを理解することができありがとうございます。(一般)
- ・Youtube の仕組みについての説明があって良いが報告の大半を使うのは長い。動画を作ること、学生の皆さんが体験から学ぶこと、中央商店街が元気になること、どれを目指しますか？(一般)
- ・内容資料 1 枚でもよいのでつけてほしい。(一般)
- ・土曜を犠牲にしても、活性化にかかわる姿勢に感動しました。(学生, 1年)
- ・動画を使うことによりみている側も楽しみながら聞けたのでよかったと思う。(学生, 1年)
- ・中央商店街の活性化期待しています。(学生, 1年)
- ・お疲れ様でした。(学生, 1年)

- ・商店街のビデオは良かった GOOD! (学生, 2年)
- ・今後も頑張ってくださいたいです。(学生, 3年)
- ・COC 事業についてよくわかっていないので、情報は交流してもらいたい。(学生, 3年)
- ・Youtube のところがすごかった。メディア系の大学らしさがありました。(学生, 3年)
- ・もっとだしじルの活動に期待している、学生に手伝いを周知してね!! (学生, 4年)
- ・まちラボの活動、期待しています。知らせる目的のはずなのにお金儲けが目的のように聞こえる。(学生, 4年)
- ・稚内の良さをアピールする良い取り組みであると思った。(学生, 4年)
- ・「目的」「今後」などがはっきりしていた。(学生, 4年)
- ・もっと商店街での活動、ひいては稚内市で活動を続けてほしい。(学生, 4年)
- ・パワーポイントを上手にを使って立派でした。動画が入ると、リラックスして楽しく見たり聞いたり、することができました、皆さんの頑張りに拍手!! ご指導された先生たち、ありがとうございました。今後とも期待しております。(学生, 夜間学生)
- ・全体的に発表内容が長くない(分担しているため) のに紙を読みすぎだと思います、人に見せているものを本人たちがあまり見ていない→共有できていないという印象です。よかったところはそれができていた人や場面があったということ。(学生, 夜間学生)
- ・COC のサークルの存在、知りませんでした。しっかり目的を持って活動している様子がよかったです。(本学教職員)
- ・動画の機能を上手に利用していて、見たくなりました。(本学教職員)

報告④ 商店街における実践活動～利尻町杓形商店街での活動を通して～

- ・「あいさつ」からコミュニケーションは始まります、大事なことです。
- ・見つけた課題などをしっかりと掘り下げを調べて尽くしてください。またそれを自分のものできるように頑張ってください。(一般)
- ・企画、提案したものを”形” にするというのをこれからも続けていってください。(一般)
- ・引き続き、地域の活動に積極的な気持ちで参加してください。(一般)
- ・活動から発表まで、授業外も含めご苦労様でした。「学生」というだけで持っている価値もあります、頑張ってください。(一般)
- ・目的活動がわかりやすく、大変良かった。学生らしい活動でよい。(一般)
- ・地域振興を躍動的に扱いよかったです。地域の人へのインタビュー場面がもっとほしかった。(一般)

- ・報告の資料を配り（パワーポイントの資料を印刷）、パワーポイントの使い方の工夫をしてはどうですか、地域への飛び込みは非常に良かった。（一般）
- ・杓形だけではなく、宗谷管内全域で人口減が原因となる商店街が暗い状態が増加すると思われれます。商店街だけではなく街に活気をつけるためにも若い力が必要です。（一般）
- ・杓形商店街での体験を稚内で生かしていただきたいです。（一般）
- ・押し葉コンクールの展示を見に行ったので、親近感を感じた。（一般）
- ・「あったらいいもの」を第三者が考え、その町に導入することは危険を伴います。「強み」に着目した地域づくりを考えた時、利尻町商店がどうなるか、考える機会を設けてはどうでしょう。（一般）
- ・内容資料1枚でもよいのでつけてほしい。（一般）
- ・利尻についての活動を通してどんなことを感じたかを詳しく知ることができ動画もあったのでとてもよかったです。（学生，1年）
- ・楽しかったです、動画がすごいと思う。（学生，1年）
- ・お疲れ様でした。（学生，1年）
- ・商店街に若者が歩いているのはいいねの言葉がある意味、重かった。（学生，2年）
- ・今後も頑張ってくださいたいです。素晴らしい動画でした。（学生，3年）
- ・利尻には一度行ったが、たしかに、らしさは行くだけではわからなかったもので何があるのか知れてよかった。（学生，3年）
- ・マイクの雑音が気になった。発表についてはわかりやすく良いものでした。（学生，3年）
- ・パワーポイントの背景は青とかのほうが印象が良いのでは？黒は違うと思う。（学生，4年）
- ・スライドが見えにくい、すごくいいことを言っているのにもったいない。（学生，4年）
- ・出身地の近くということもあって、こういった取り組みを続けてほしい。（学生，4年）
- ・「どんな活動をしたのか」が動画によって、より分かった。（学生，4年）
- ・利尻での活動を通し、仕掛けづくりに関して学ぶことができたのだなと思います。（学生，4年）
- ・パワーポイントを上手に使って立派でした。動画が入ると、リラックスして楽しく見たり聞いたり、することができました、皆さんの頑張りに拍手！！ご指導された先生たち、ありがとうございました。今後とも期待しております。（学生，夜間学生）
- ・全体的に発表内容が長くない(分担しているため)のに紙を読みすぎだと思います、人に見せているものを本人たちがあまり見ていない→共有できていないという印象です。よかったところはそれができていた人や場面があったということ。（学生，夜間学生）

- ・学生の発想がよく、それぞれの自分の考えを持って行動していた様子がよくわかりました。(本学教職員)
- ・具体的な活動を通して得た経験をぜひ生かしてほしいです。(本学教職員)

各ポスター

- ・ポスターとしては字が小さいです。(一般)
- ・とても見やすいポスターでした。(学生, 3年)
- ・ラボちゃんがとても可愛らしい。(学生, 4年)

運 営

- ・今度ともCOC推進、地域活動に期待しています。(一般)
- ・これからも、学生さんを前面に地域に足を運び、実践を重ね、この報告会を継続してほしい。
(一般)
- ・1年生は5限目が必修で報告会の全部が聞けなかったのがもったいない。(学生, 1年)
- ・雰囲気がとてもよかったです。(学生, 3年)
- ・司会がとてもスムーズであった。(学生, 4年)
- ・司会の自己紹介をあえて、遅らせているのかな?と感じました。(学生, 4年)
- ・大学を中心とした、連携を力強く思いました。(学生, 夜間学生)
- ・このような会も大切ですが、学生の学習活動の様子、学園祭のような場でも、紹介できるとよいのでは?と思いました。(本学教職員)
- ・とてもスムーズでした。経験が生かされていると感じます。ほぼ時間通りに終わったのもとてもよかったです。(本学教職員)

資料 (アンケート調査票)

アンケート

< お 願 い >

- このアンケートは、COC推進事業の推進と地域活動報告会の充実を図る目的で、参加者の皆様の感想やご意見をお伺いするものです。
- このアンケート調査の結果は、集計して利用され、個人を特定することはありません。
- このアンケートにより得た情報の管理は、個人情報保護規程等に則り、COC推進委員会が適切に行います。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

以下、6点お伺いします。該当する番号に○を付け、自由記述に感想をお書きください。

(1) はじめにあなたの学年 (学生のみ回答)、世代、所属をお聞きます。(各1つに○)

- ① 学年 (学生のみ回答) 1. 1年 2. 2年 3. 3年 4. 4年 5. 夜間学生
- ② 世代 1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳 6. 60歳代以上
- ③ 所属 1. 一般参加 2. 学生 3. 本学教職員

(2) 報告会の長さ、開催時間についてお聞きます。(各1つに○)

- ① 報告会の長さ 1. 長いと思う 2. 適当な長さと思う 3. 短いと思う
- ② 会の開催時間 1. 午前中がよい 2. 午後の早い時間がよい 3. 午後の遅い時間がよい
4. 夜の時間がよい

(3) 今日の報告会を何で知りましたか。(複数回答可)

- 1. 新聞 2. ホームページ 3. チラシ 4. メール 5. 案内状 6. その他 ()

(4) 報告会に来てよかったと思いますか。(1つに○)

- 1. 大変良かった 2. よかった 3. ふつう 4. あまり良くなかった 5. よくなかった

理由をお聞かせください： _____

(5) 今後、このような会で取り扱ってほしい内容や話題 (学生、本学教職員は行いたい内容や話題)をお聞かせください。

(6) さいごに、各報告等についてご感想や激励のメッセージをお聞かせください。

報 告 ①： _____

報 告 ②： _____

報 告 ③： _____

報 告 ④： _____

各ポスター： _____

運 営： _____

< ご協力いただきましてありがとうございました >


青森大学
 AOMORI UNIVERSITY


地(知)の拠点

COC

第3回 **地域活動報告会**

- 1 地域教育**
教育支援と教職としての学び
- 2 地域観光**
まち歩きガイド視察報告
- 3 まちなか振興**
商店街における実践活動
稚内中央商店街での活動を通して
- 4 まちなか振興**
商店街における実践活動
利尻町魚形商店街での活動を通して

P 地域教育
 稚内市のICT利用教育
 実態の把握と教員向け研修カリキュラム

P 地域教育
 「南中ソーラン」の今日的意義と課題の検証

P 地域観光
 インバウンドを意識した観光施設づくり
 本学のシーズを活かした地域連携の試行

P 地域観光
 地域内在型物語の制作・蓄積・提供手法の構築

※Pはポスター掲載。すべて「地域志向教育研究経費採択課題研究計画」によります。
 開会前と閉会後それぞれ30分をポスターセッションとしています。

2015.10.20 火
 14:30 ~ 16:00

稚内北星学園大学
 1301 教室

誰でも参加でき無料です。

「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)とは地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を文部科学省が5年間支援し、地域コミュニティの中核的存在の機能強化を目的としています。本学の事業は今年度で2年目。「COC」とは「Center Of Community」の略文字です。

◆問い合わせ 大学事務局総務課(COC事業推進担当) TEL:0162-32-7511

報道関係者各位

平成27年●月●日

「第3回地域活動報告会」を開催します

稚内北星学園大学（学長 佐々木政憲）では、以下の日程で、「第3回地域活動報告会」を開催します。

この報告会は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）に採択された本学の取り組みについて、本年度上半期個々の具体的事例を地域の皆様とともに共有し、ご意見を頂戴し、激励を頂く機会とするために開催するものです。

多くの皆様にご出席していただきたく、広報と当日の取材のご協力をお願いします。

日時：10月20日（火）14時30分（16時終了の予定）

場所：稚内北星学園大学 新館3階中教室（1301教室）

※参加は無料です。一般の方に関しては、事前申し込みは不要です。

内容：平成27年度上半期に実施した、**教職ゼミによる教育支援やまち歩きガイド視察の報告、商店街における実践活動を題材に学生による活動内容の報告。**

本年度から設置している地域志向教育研究経費の採択課題4点など、**教職員、学生が取り組む地域志向教育・研究**についてのポスター発表。

- 本学では文部科学省地（知）の拠点事業の採択を受け、宗谷地域、とりわけ稚内市及び利尻町との連携を深め、地域の教育力向上とまちづくりで協働する地の拠点を目指しています。
- 「地域活動報告会」は当該事業の推進を図るために年2回実施の予定で、その第3回（本年度第1回目）の開催となります。
- 全学的取り組みとして地（知）の拠点事業を推進することとしており、これまで以上に地域との連携を図っていく計画です。

お問い合わせ先

稚内北星学園大学 COC推進委員会 事業推進室

〒097-0013 北海道稚内市若葉台1丁目2290-28

電話0162-32-7511 FAX0162-32-7500

E-mail：info(アット)wakhok.ac.jp ※(アット)は@に変換してください

担当：三浦・鏡山・黒木

詳しい内容をホームページでも紹介しています。ご覧いただければ幸いです。

<http://www.wakhok.ac.jp/coc.html>

問い合わせ先

稚内北星学園大学

COC推進委員会事業推進室（事務局総務課）

〒097-0013 北海道稚内市若葉台1丁目 2290-28

T E L 0162-32-7511

F A X 0162-32-7500

E-mail info@wakhok.ac.jp

わくほくCOCホームページ

<http://coc.wakhok.ac.jp/>

COC推進委員会第3回地域活動報告会実施報告書編集小委員会 委員一覧

佐賀 孝博（副学長／教授／事業推進責任者）

黒木 宏一（講師／事業推進室長）

高 澍（特任助教／学習コンシェルジュ）

中野 窓香（メディア表現指導員）

第3回地域活動報告会実施報告書

2016（平成28）年2月15日発行

編 集 COC推進委員会第3回地域活動報告会実施報告書編集小委員会

発 行 稚内北星学園大学 COC推進委員会
〒097-0013 北海道稚内市若葉台1丁目 2290-28
電 話:0162-32-7511（代表）
メール:info@wakhok.ac.jp

無断転載を禁じます。